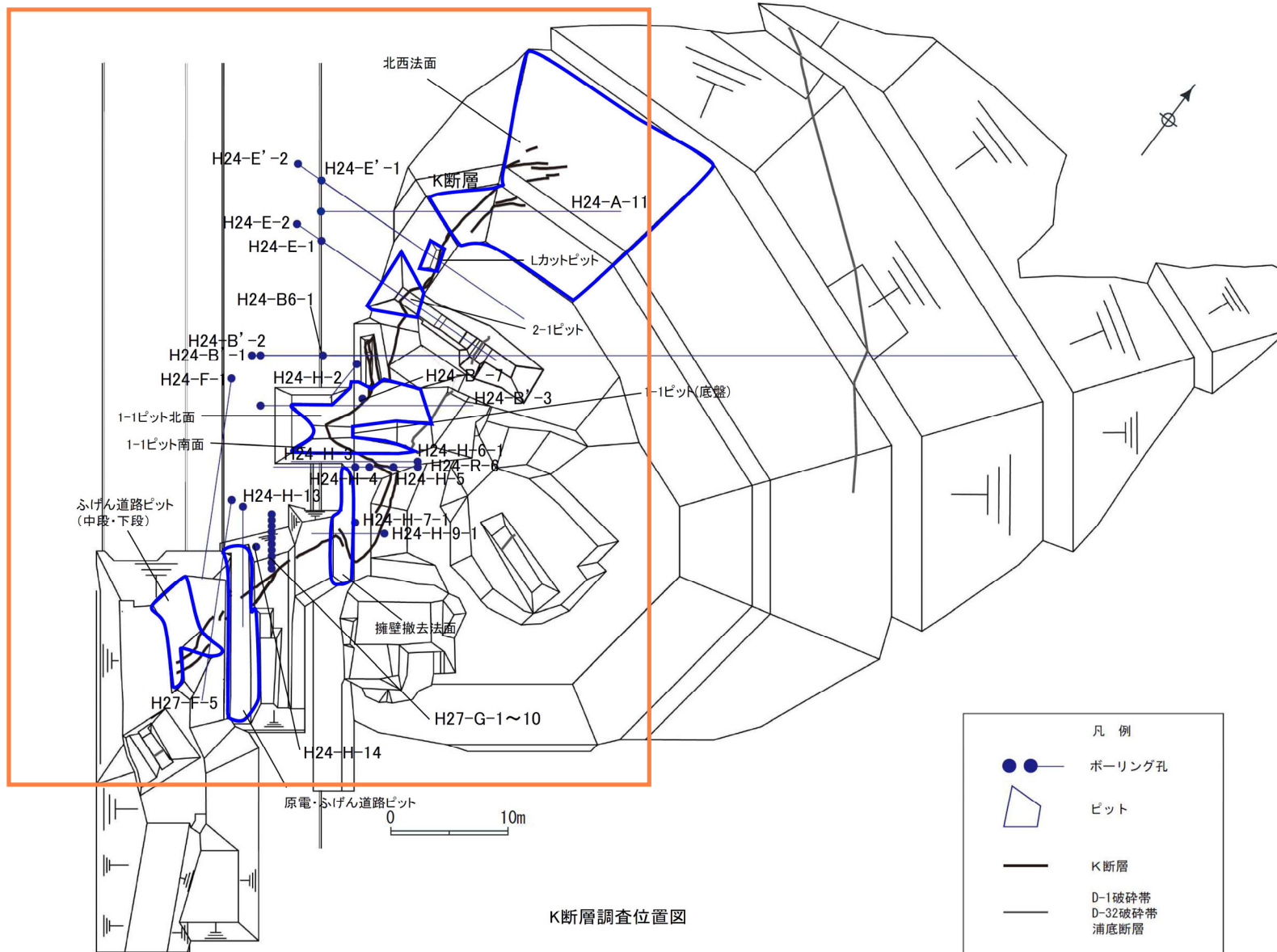


# K断層 調査位置図

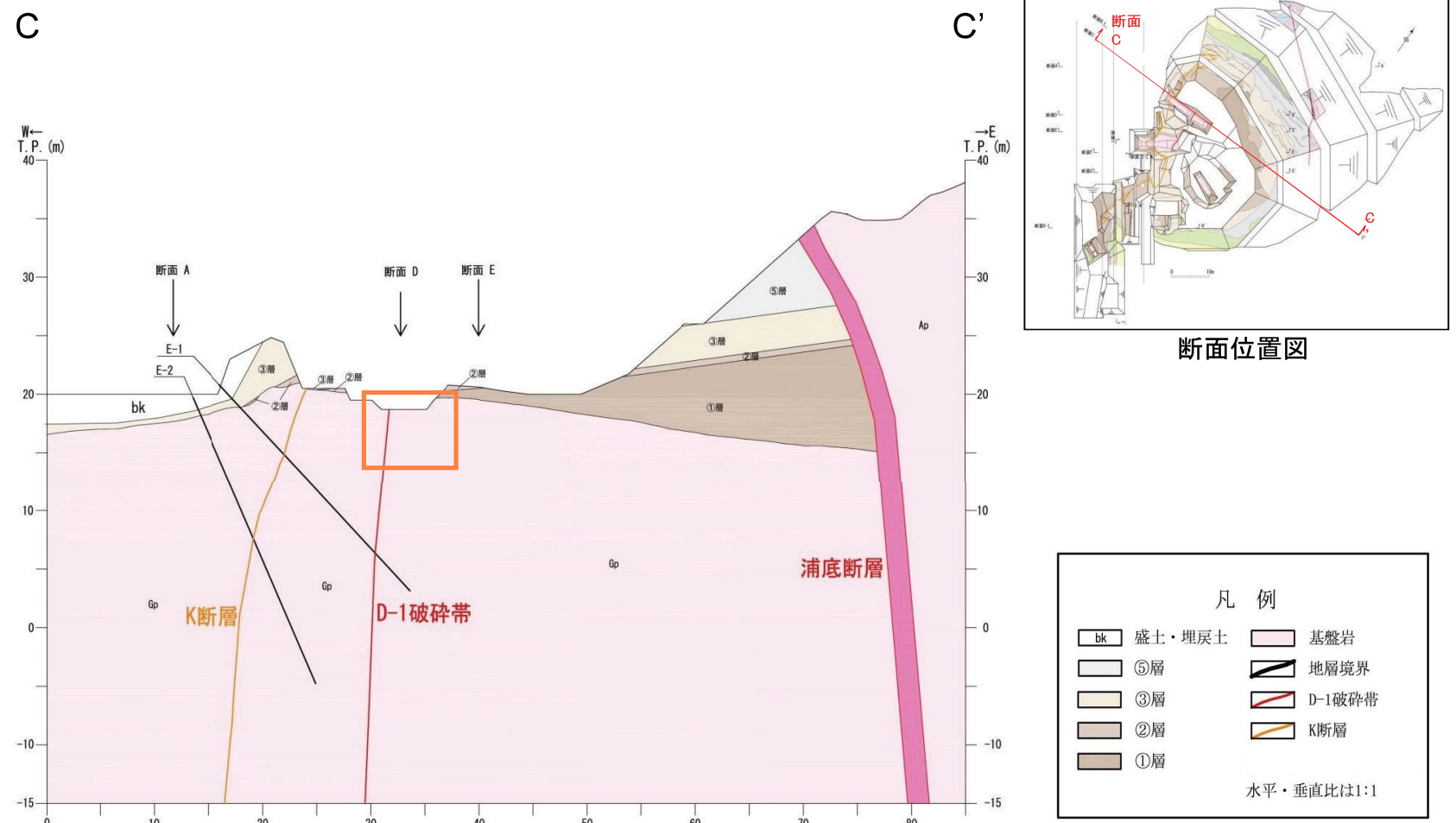
74 : 2-1ピット底盤を掘り込み後の形状に修正  
 ボーリング位置を修正 (北にずれていたため修正)

修正後  
 第833回審査会合  
 資料1 修正



K断層調査位置図

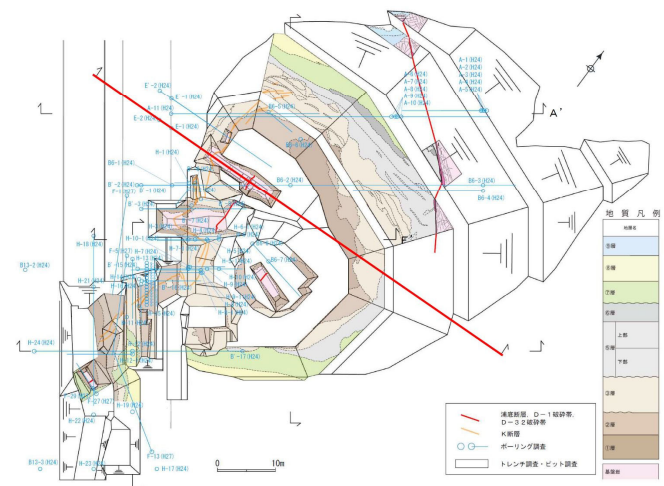
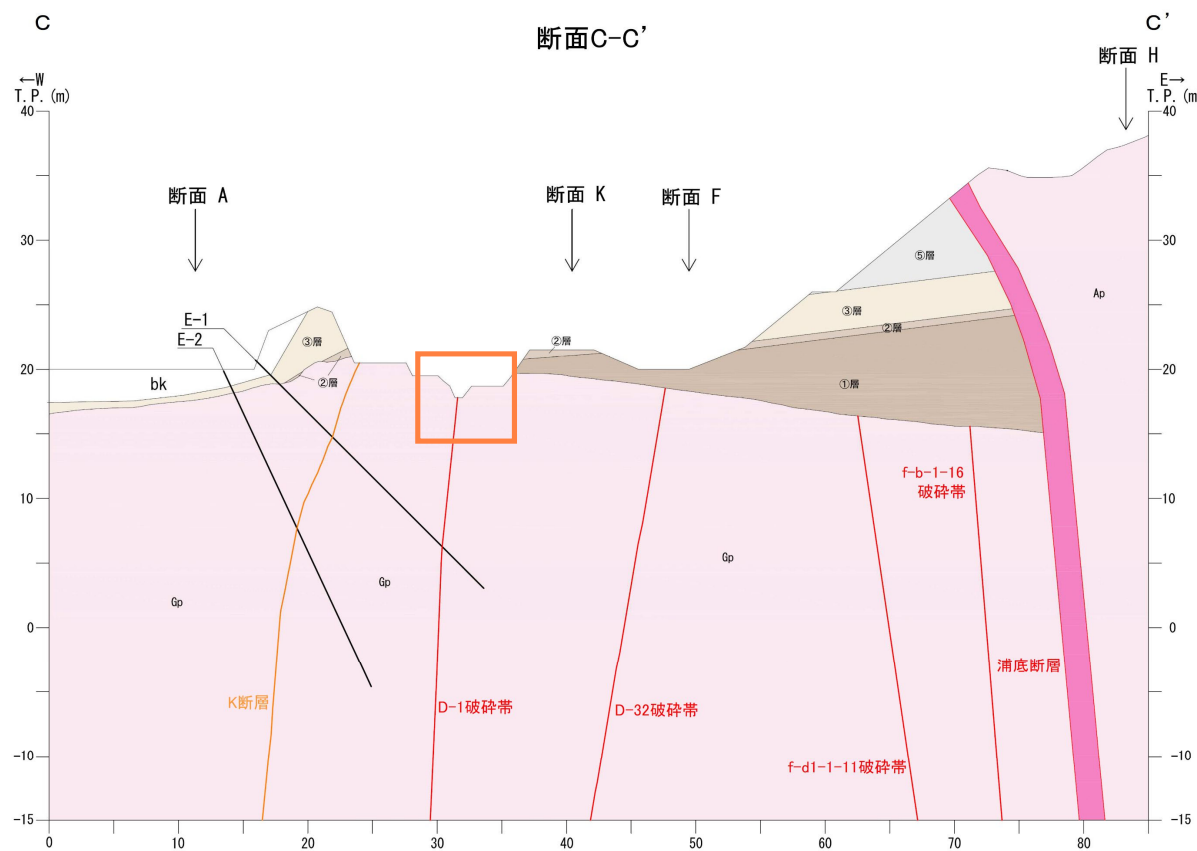
2.2 (1)D-1破碎帯  
D-1トレンチの地質断面図(C-C')



D-1トレンチに分布する地層は、花崗斑岩とそれを覆う第四系からなり、第四系は層相から下位より①層～⑨層に区分した。

D-1トレンチ断面図(C-C')

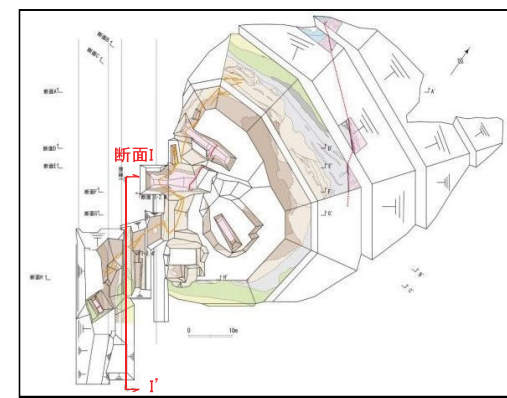
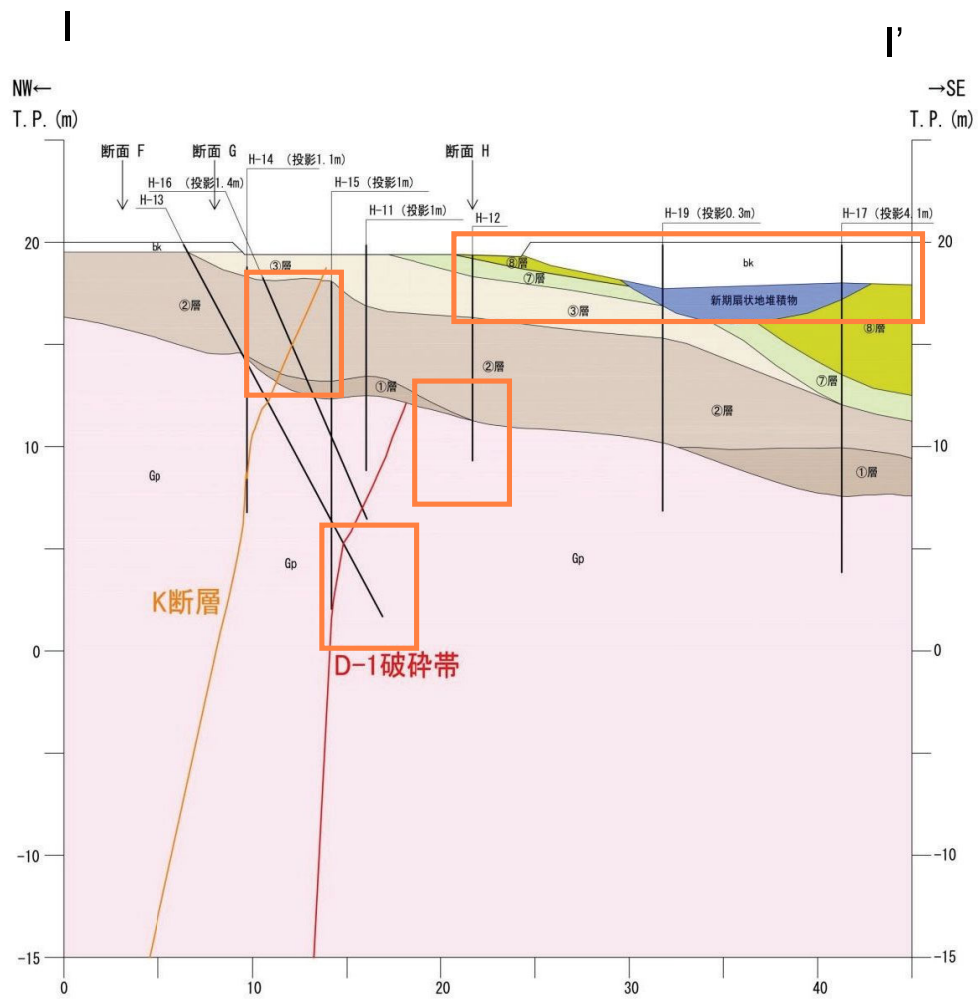
75 : 2-1ピット底盤を掘り込み後の形に修正



2.2 (1) D-1 破碎帯  
D-1 トレンチの地質断面図(I-I')

76 D-1 トレンチ断面図 (I-I')

修正箇所：橙色枠



断面位置図

凡例

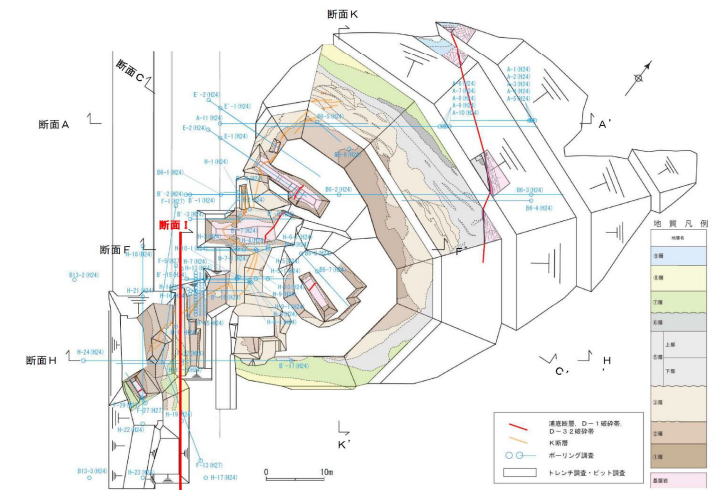
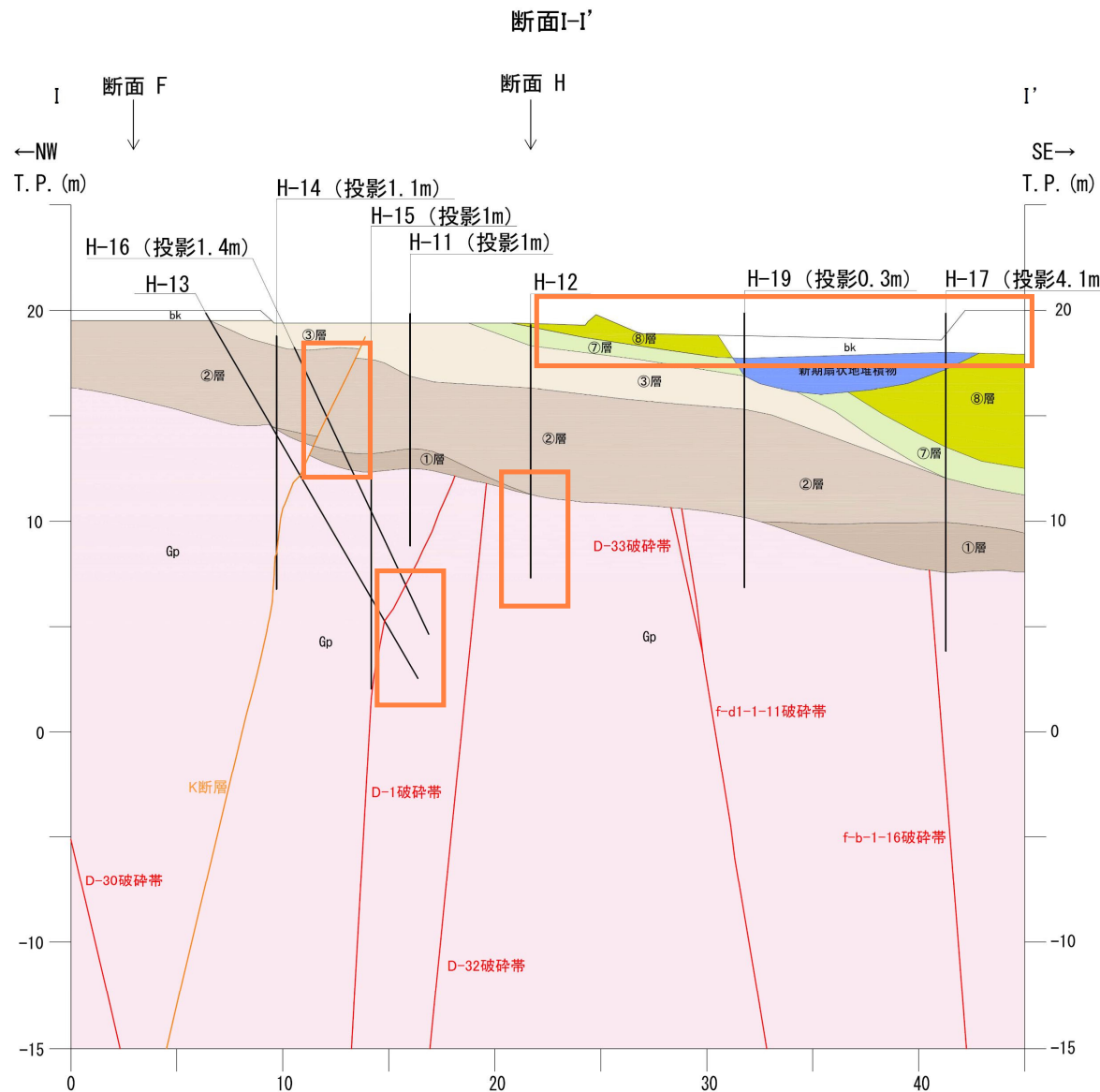
bk	盛土・埋戻土	基盤岩
新期扇状地堆積物	地層境界	
⑨層	D-1破碎帯	K断層
⑦層		
③層		
②層		
①層		
水平・垂直比は1:1		

D-1 トレンチに分布する地層は、花崗斑岩とそれを覆う第四系からなり、第四系は層相から下位より①層～⑨層に区分した。

# D-1トレンチ断面図(I-I')

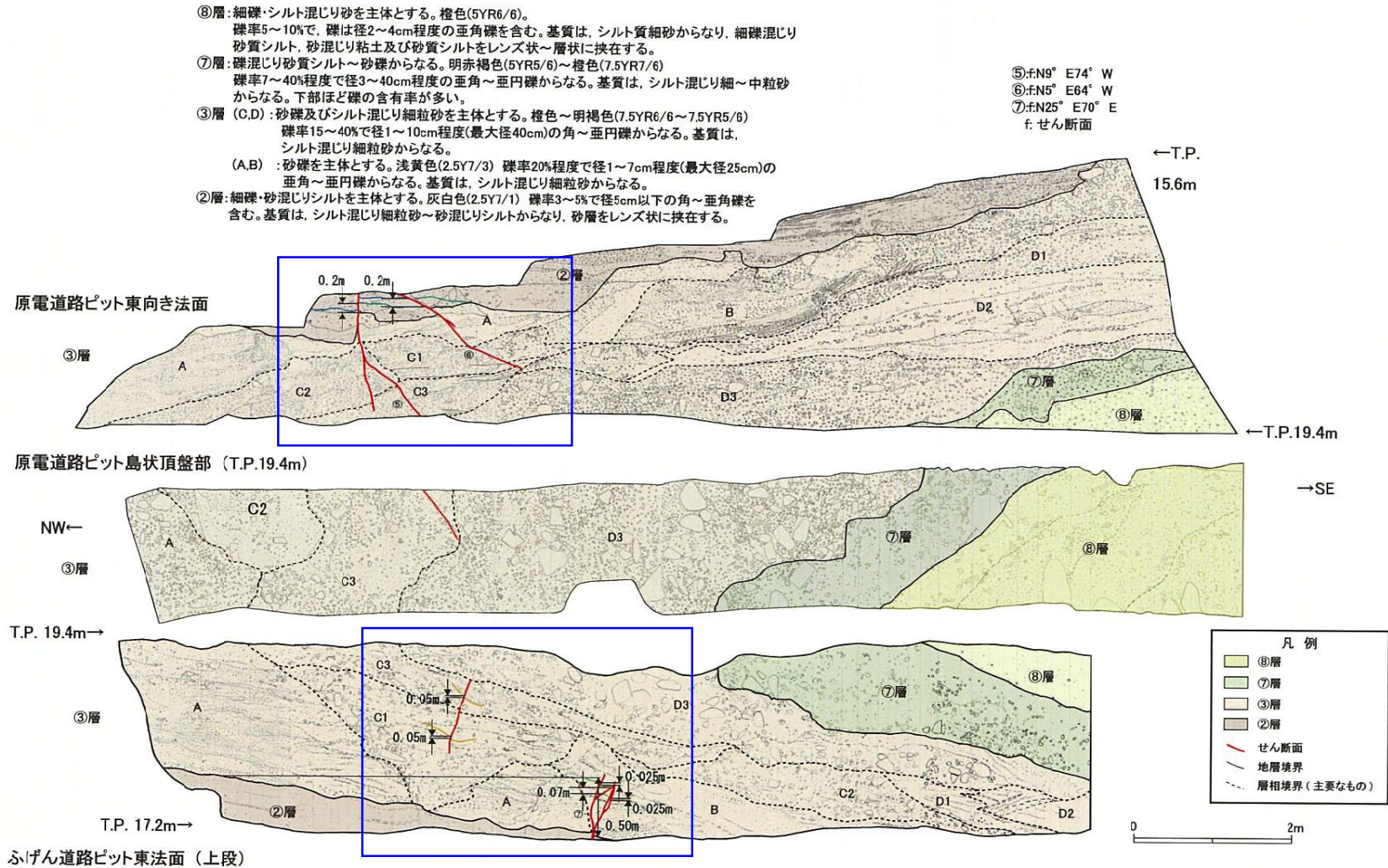
76 : 最新の法面形状に修正

修正後



作成日・確認日：2022年3月31日  
 確認者： XXXXXXXXXX

原電・ふげん道路ピットスケッチ



東向き法面



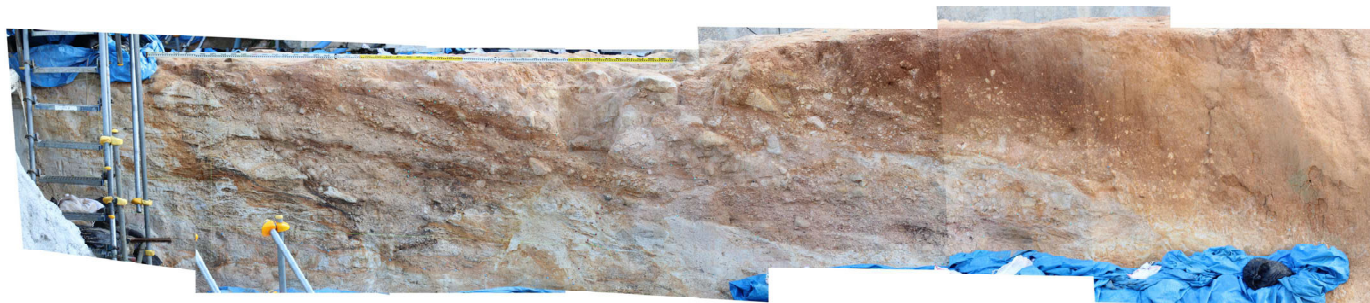
2015年10月撮影

島状頂盤



2015年9月撮影

ふげん道路  
東法面



2015年10月撮影

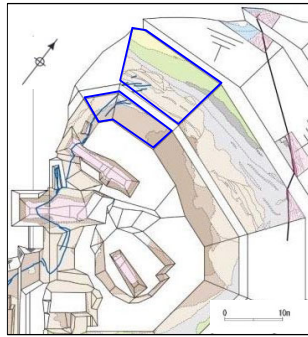
2m

# K断層の性状(北西法面)

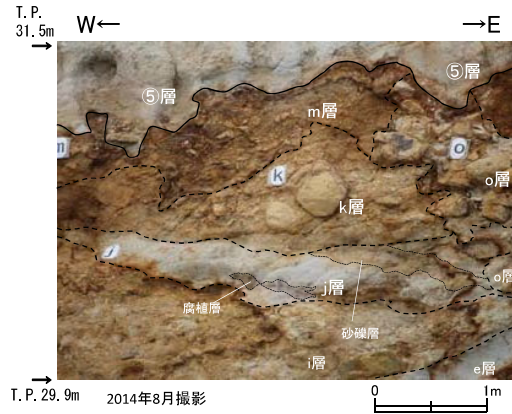
77  
修正箇所：橙色枠

第536回審査会合  
資料2 修正

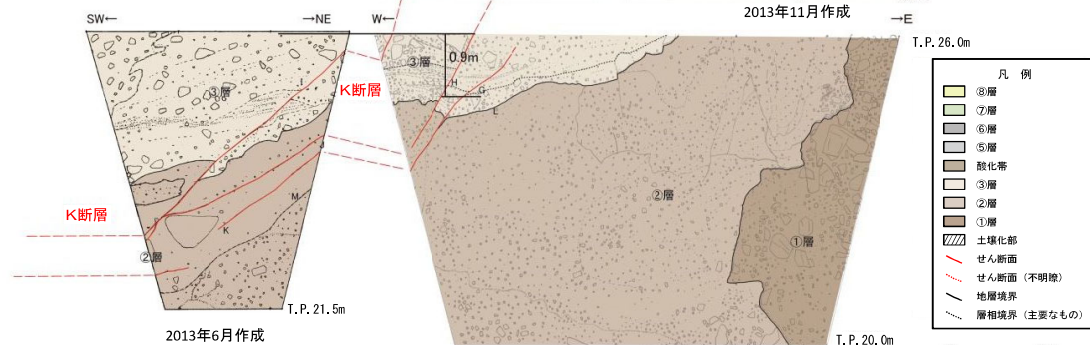
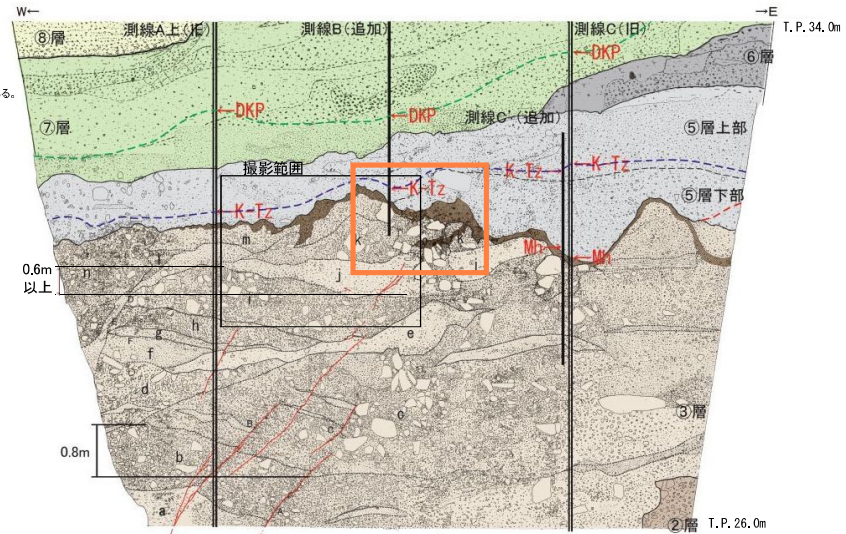
- ・北西法面においてK断層は、③層以下の地層に逆断層変位を与えており、その変位量は90cm程度である。
- ・また、K断層の変位・変形の形態については、下方の地層では変位が、上方では変形が主体となっている。
- ・K断層によって変位・変形を受けている③層上部のj層については、腐植層や砂礫層の層理は東へ傾斜しており、同層基底ではK断層による変位・変形量は60cm以上である。
- ・一方、j層直上のk層については、j層を傾斜不整合関係で覆っており、k層の基底及びk層中の砂層は概ね水平である。
- ・以上のことから、K断層はk層には変位・変形を与えていないと判断される。



調査位置図



- ⑧層: 砂礫  
礫径5cm以下、特に1cm以下の角～亜角礫を主体とし、まれに10cm程度の礫を含む。礫種は新鮮な花崗斑岩、アプライト、石英である。基質はシルト質泥～中粒砂からなり、ゆるい、成層構造(ほぼ水平、一部斜交葉理様)が見られる。
- ⑦層: 凝結シルト質砂～凝結シルト質砂(砂礫を伴う)  
橙色～明黄褐色(7.5YR6/6～10YR6/6)、灰色(10Y6/1)を呈する。
- ⑥層: 腐植質砂質シルト～シルト質砂(一部に砂礫を伴う)  
木片を多数含む。
- ⑤層: 砂礫主体(凝結シルト質砂～凝結シルト層を伴う)  
大局的には上方縮進化の傾向を示す。  
黄灰色～明オリブ灰色(2.5Y6/1～2.5GY7/1)を呈する。  
酸化帯: ③層と⑤層の境界面付近に多い。
- ③層: 砂礫  
主に20cm以下(まれに50cm大)の角～亜角礫を含む。  
礫種は花崗斑岩、花崗岩である。淘汰は極めて悪い。  
基質は細～粗粒砂で、締まりは良好である。一部レンズ状に砂層を挟む。  
にぶい橙色～褐色(7.5YR7/3～7.5YR6/6)を呈する。  
K断層近辺の砂礫層は、傾斜を示す。
- ②層: 凝結シルト  
礫径0.2～30cm(まれに50cm以上)で、亜角～角礫を含む。  
礫種はアプライト、粗粒花崗岩からなる。礫径10～20%である。  
にぶい橙色～明青灰色(5YR6/4～10B7/1)を呈する。
- ①層: 砂礫  
礫径0.5～30cm(最大100cm以上)で、亜角～角礫を含む。  
礫種は花崗斑岩、粗粒花崗岩、アプライト、石英である。淘汰は悪い。  
基質は砂質シルトで、締まりは良好である。  
黄褐色(10YR5/6)を呈する。



- A: せん断面: N25° E58° W
- B: せん断面: N20° E63° W
- C: せん断面: N22° E57° W
- D: 層理面(チャネル壁): N87° W42° S
- E: 層理面(チャネル壁): N33° W46° W
- F: 層理面(堆積構造): N69° E16° S
- G: せん断面: N41° E60° NW  
見かけ15cm変位(逆断層)
- H: せん断面: N33° E72° NW  
見かけ10cm変位(逆断層)
- I: せん断面: N11° W64° W
- J: せん断面: N9° W44° W
- K: せん断面: N13° E48° NW
- L: 層理面(②層③層境界): N47° W20° SW
- M: 層理面: N19° E56° NW

北西法面 スケッチ



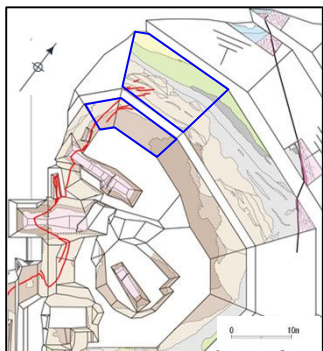
# K断層の性状(北西法面)

77：最新版に修正（土壌化範囲の観察結果の反映もれを修正）  
②層の色調修正

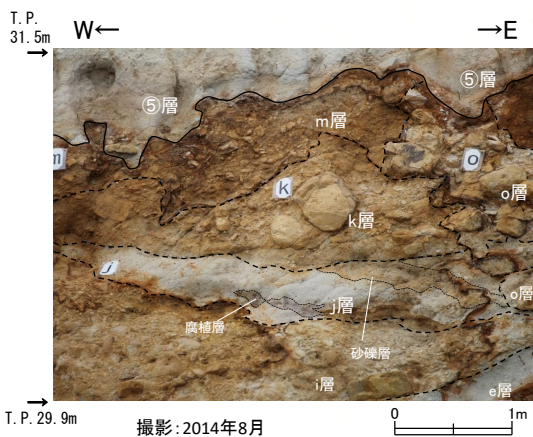
修正後

第833回審査会合  
資料1 修正

- 北西法面のスケッチを以下に示す。
- 北西法面においてK断層は、③層以下の地層に逆断層変位を与えており、その変位量は90cm程度である。
- また、K断層の変位・変形の形態については、下方の地層では変位が、上方では変形が主体となっている。
- K断層によって変位・変形を受けている③層上部のj層については、腐植層や砂礫層の層理は東へ傾斜しており、同層基底ではK断層による変位・変形量は60cm以上である。
- 一方、j層直上のk層については、j層を傾斜不整合関係で覆っており、k層の基底及びk層中の砂層は概ね水平である。
- 以上のことから、K断層はk層には変位・変形を与えていないと判断される。

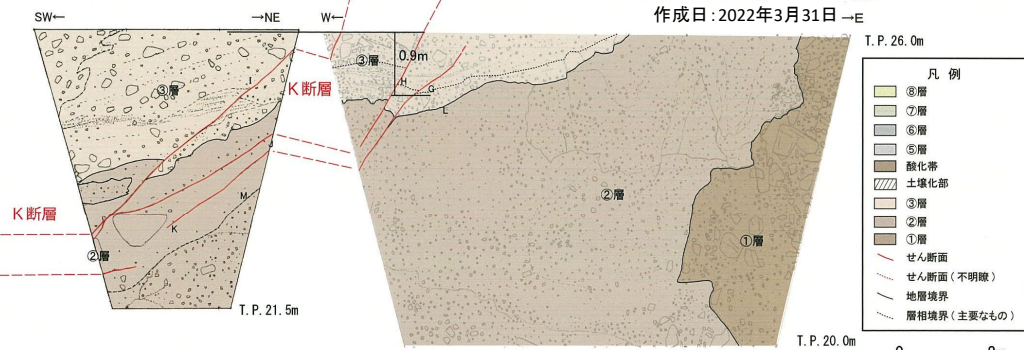
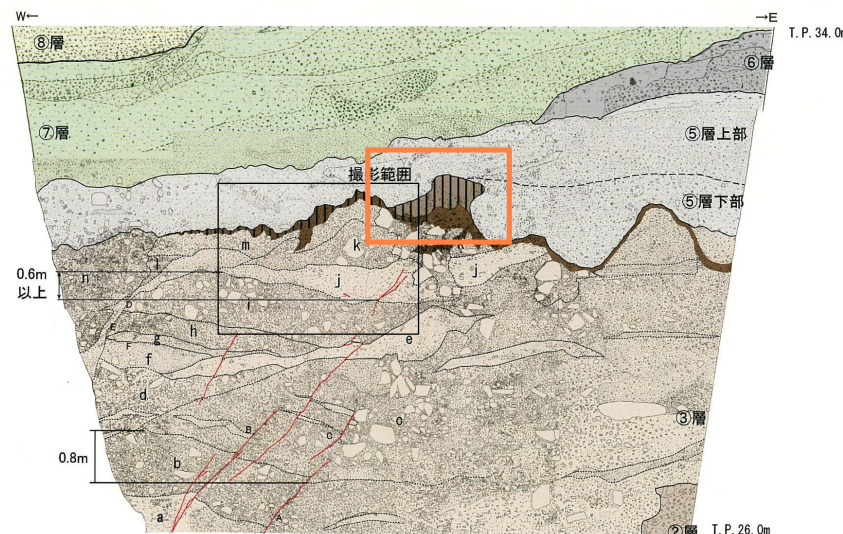


調査位置図



撮影：2014年8月

- ⑧層：砂礫  
礫径5cm以下、特に1cm以下の角～歪角礫を主体とし、まれに10cm程度の礫を含む。礫種は新鮮な花崗斑岩、アブライト、石英である。基質はシルト質細～中粒砂からなり、ゆるい。成層構造（ほぼ水平、一部斜交層理）が見られる。  
褐 (7.5YR4/4)、黄緑 (7.5YR7/8) を呈する。
- ⑦層：礫混じりシルト質砂～礫混じり砂質シルト（砂礫を伴う）  
褐色～明黄褐色 (7.5YR6/4～10YR6/4)、灰色 (10Y6/1) を呈する。
- ⑥層：腐植質砂質シルト～シルト質砂（一部に砂礫を伴う）  
穴片を多数含む。  
暗灰 (N3/2)、灰 (10Y6/1) を呈する。
- ⑤層：砂礫主体（礫混じりシルト質砂～礫混じり砂質シルト層を伴う）  
礫は径0.5～20cmの角～歪角礫主体。  
大局的には上方細粒化の傾向を示す。  
黄灰色～明オリーブ灰色 (2.5Y6/1～2.5Y7/1) を呈する。  
酸化帯：②層と⑤層の境界面付近に多い。
- ④層：砂礫  
主に20cm以下（まれに50cm大）の角～歪角礫を含む。  
礫種は花崗斑岩、花崗岩である。淘汰は極めて悪い。  
基質は細～粗粒砂で、締まりは良好である。一部レンズ状に砂層を挟む。  
にふい橙色～棕色 (7.5YR7/3～7.5YR6/6) を呈する。  
K断層近辺の砂礫層は、構造を示す。
- ③層：礫混じりシルト  
礫径0.2～20cm（まれに50cm以上）で、歪角～角礫を含む。  
礫種はアブライト、粗粒花崗岩からなり、一部10～20%である。  
にふい橙色～明黄灰色 (5YR6/4～10B7/1) を呈する。
- ②層：砂礫  
礫径0.5～30cm（最大100cm以上）で、歪角～角礫を含む。  
礫種は花崗斑岩、粗粒花崗岩、アブライト、石英である。淘汰は悪い。  
基質は砂質シルトで、締まりは良好である。  
黄褐色 (10YR5/8) を呈する。



作成日：2022年3月31日

北西法面 スケッチ

- 凡例
- ⑧層
  - ⑦層
  - ⑥層
  - ⑤層
  - 酸化帯
  - 土壌化部
  - ③層
  - ②層
  - ①層
  - せん断面
  - せん断面（不明瞭）
  - 地層境界
  - 層相境界（主要なもの）
- A：せん断面：N25° E58° W  
B：せん断面：N20° E63° W  
C：せん断面：N22° E57° W  
D：層理面（チャネル壁）：N87° W42° S  
E：層理面（チャネル壁）：N33° W46° W  
F：層理面（堆積構造）：N69° E16° S  
G：せん断面：N41° E60° NW  
見かけ15cm変位（逆断層）  
H：せん断面：N33° E72° NW  
見かけ10cm変位（逆断層）  
I：せん断面：N11° W64° W
- J：せん断面：N0° W44° W  
K：せん断面：N13° E48° NW  
L：層理面（②層③層境界）：N47° W20° SW  
M：層理面：N19° E56° NW
- 作成日：2022年3月31日

青枠：土壌化した範囲に関する部分

77 (スケッチ) のエビデンス (1/10)

スケッチ名D-1トレンチ 北西法面 1/20 右(2/2) スケッチ

スケッチ原図に以下の情報が書かれているか  
 ・観察面の対象箇所名  
 ・観察面の枠  
 ・縮尺  
 ・方位、スケール(または、グリッドの間隔)

○

スケッチ

①層：砂礫質シルト質砂  
 風化して土壌化している。  
 上位の②層上部、③層とは、④層が遠くまで、  
 ①層が酸化色で風化が土壌化が遠くまで、  
 千粒不整合面7年でもおぼろしくわかる。  
 砂 (7.5YR 6/6)、明灰褐 (10YR 6/6)、灰 (10Y 6/1)

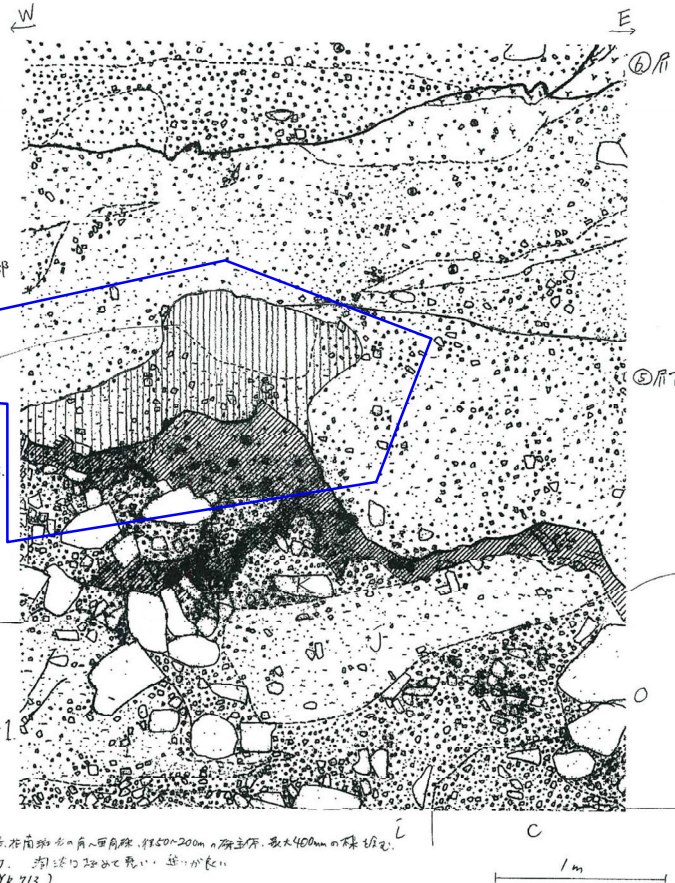
②層上部：シルト質砂礫 ~ シルト質砂  
 砂礫 15 ~ 20%  
 花崗岩、花崗砂岩の角~亜角礫  
 径100mm以下の砂を含む。  
 基質はシルト質細粒砂質土。  
 腐植質シルト ~ 腐植質を含むシルト質砂質土  
 にシルト質土質。  
 上部は白く土壌化が浅い。  
 西側に傾く傾斜している。  
 黄灰 (2.5Y 6/1)、明黄灰 (2.5Y 7/1)

O: 砂礫  
 砂礫 50 ~ 60%  
 花崗岩、花崗砂岩の角~亜角礫。  
 径100 ~ 200mmの砂礫主体。最大500mmの礫を含む。  
 基質はシルト質細粒砂質土。  
 塊状は極めて悪い。上部は酸化灰褐色。土壌化している。  
 傾斜が長い。  
 下部の砂層(C.F. J. 砂)を赤く染めた層で、  
 不整合面があるとおぼろしくわかる。 灰白 (7.5Y 8/2)

J: 砂礫質シルト質砂  
 花崗岩、花崗砂岩の角~亜角礫、径200mmの砂を含む。  
 上部は酸化灰褐色。傾斜が長い。  
 西側に傾斜する。  
 O層に赤褐色に染み込んでいる。  
 灰白 (7.5Y 8/2)、灰白 (7.5Y 8/2)

S-1: 土断簡

資料の確認の手順で確認済みの露頭観察面の写真を基に本図をスケッチ原図の初版とした。  
 2022年3月28日 確認者: [REDACTED]



④層：腐植質砂礫シルト  
 砂礫が多数含む。 暗灰 (N3/1)

⑤層下部：シルト質砂礫 ~ シルト質砂  
 砂礫 15 ~ 20%  
 花崗岩、花崗砂岩の角~亜角礫  
 径100mm以下の砂を含む。  
 基質はシルト質細粒砂質土。  
 下部のO層、K層、J層と、O層、K層の上部に  
 土壌化が認められる。  
 不整合面は7年でもおぼろしくわかる。  
 黄灰 (2.5Y 6/1)、明黄灰 (2.5Y 7/1)

K: シルト質砂礫  
 砂礫 20 ~ 50%  
 花崗岩、花崗砂岩の角~亜角礫  
 径50 ~ 200mmの砂礫主体。最大500mmの礫を含む。  
 基質はシルト質細粒砂質土。  
 塊状は悪い。  
 上部は酸化が浅く、一部土壌化している。  
 傾斜が長い。 (2.5Y 8/2) 灰白 (7.5Y 8/2)

C: 砂礫  
 砂礫 15%  
 花崗岩、花崗砂岩の角~亜角礫。  
 径20 ~ 100mmの砂礫主体。  
 基質は細粒砂質土。  
 塊状は悪い。傾斜が長い。  
 灰白 (7.5Y 8/2)、灰白 (7.5Y 8/2)  
 暗灰 (N3/1)

D-1 トレンチ 北西法面 1/20 右(2/2)  
 法面勾配45°

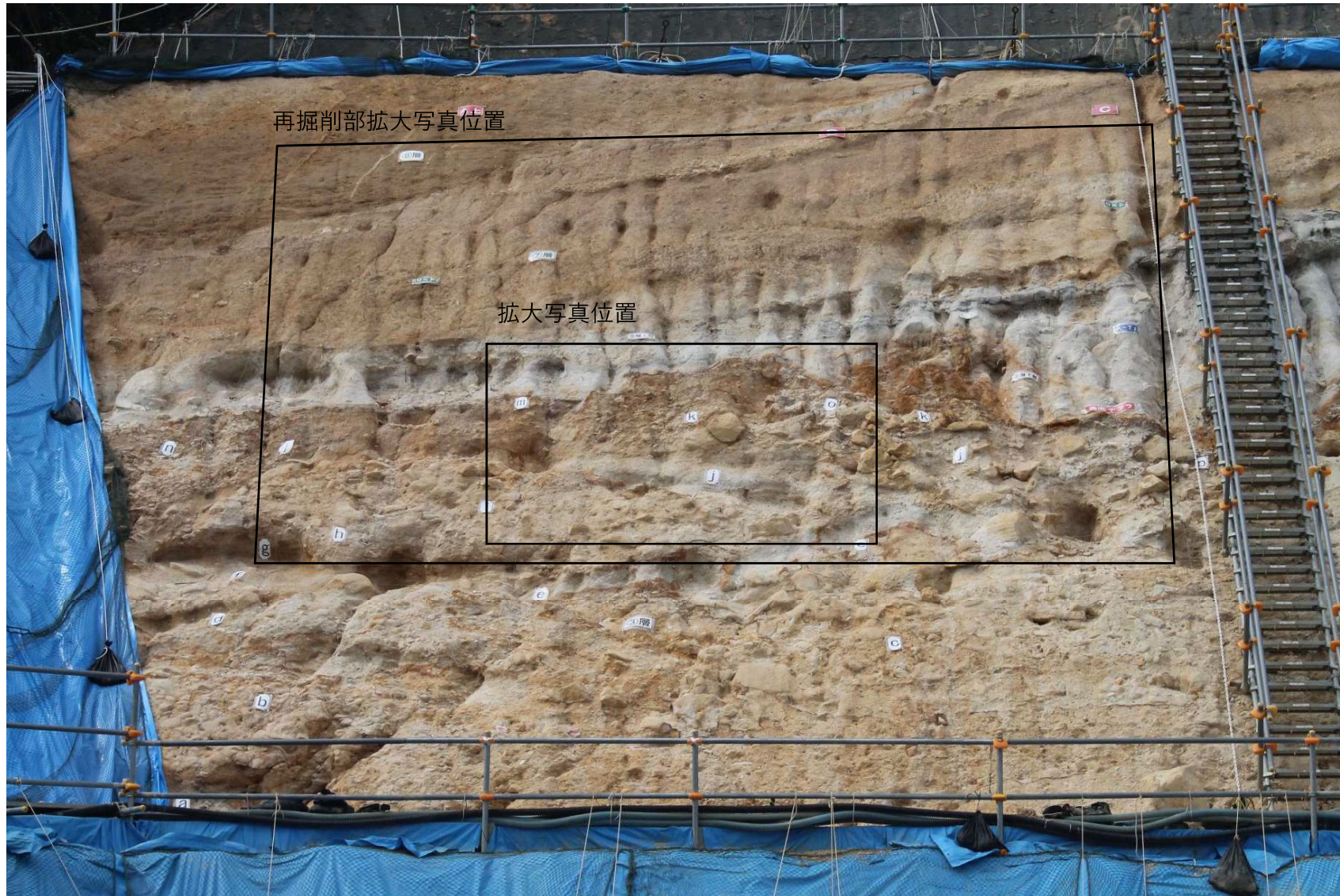
[O]: 砂礫  
 砂礫 25 ~ 50% 花崗岩、花崗砂岩の角~亜角礫、径50 ~ 200mmの砂礫主体。最大400mmの礫を含む。  
 基質は粗粒砂質土。塊状は悪い。傾斜が長い。  
 (2.5Y 8/2) 灰白 (7.5Y 8/2)



# D-1トレンチ北西面写真

77 (スケッチ) のエビデンス (3/10)

2014年6月撮影



スケッチ名D-1トレンチ 北西法面 1/20 東側下段 スケッチ

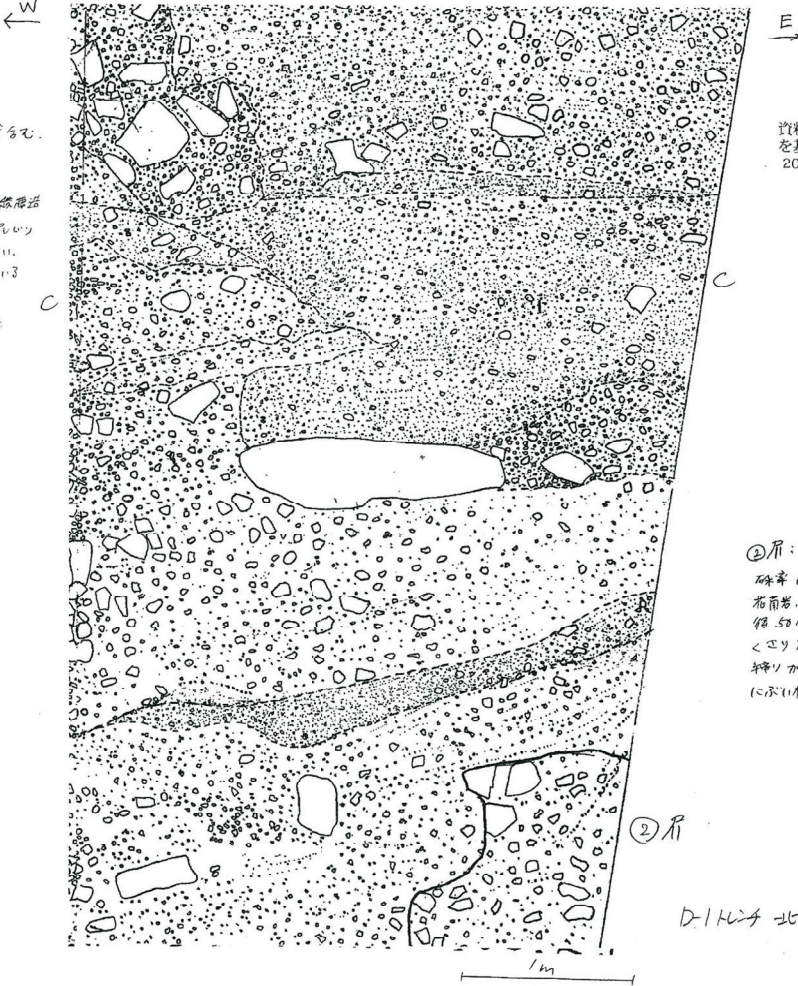
スケッチ原図に以下の情報が書かれているか

- 観察面の対象箇所名
- 観察面の枠
- 縮尺
- 方位, スケール(または, グリッドの間隔)

○

スケッチ

C: 砂礫  
 礫率 15~50%  
 花崗岩, 花崗斑岩の角~亜角礫  
 径 2~50mm の礫主体, 最大 1500mm の礫あり  
 基質は細~粗粒砂からなる  
 均一な砂質ではない  
 レンズ状の礫層を形成する, 一部に堆積層が  
 加えられる, 径 200~500mm の礫層のシルト充填  
 礫層がハッチ状に分布する, 傾斜が大きい  
 下位の②層との境界は緩衝に入り込んでいる  
 ため不整合関係であると考えられる  
 (灰色 (2.5Y 6/4), 灰白 (7.5Y 8/6))  
 暗黒 (N3/1)



資料の確認の手順で確認済みの遠頭観察面の写真を  
 を基に本図をスケッチ原図の初版とした。  
 2022年3月28日 確認者: [Redacted]

②層: 石灰質砂質シルト  
 礫率 10~20%  
 花崗岩, 花崗斑岩の角~亜角礫  
 径 50~200mm の礫を多く含む  
 傾斜が大きい  
 (灰色 (5YR 6/4), 灰白 (7.5YR 8/6))

D-1トレンチ 北西法面 1/20 東側下段  
 法面勾配45°

77 (スケッチ) のエビデンス (5/10)

2022  
作成日 3/28 作成者 [Redacted] 確認者 [Redacted] 確認日 2022. 3. 28

No.	地層の性状に関する記事	適正化すべき記事内容	スケッチ原図(第四系)										スケッチ原図(高層部)				記事・スケッチを削除・変更・追記した理由				
			地質の特徴							土壌化など、堆積			変形・傾斜		割れ目・せん断面						
			地質名	・粒状構造、礫の形状、礫の分布、礫の集まり具合	・細粒の風化	・含砂物、有機質、頁岩など	・その他、周囲と異なる状況や特徴的な状況の存在、丸ば、それらについて記載	・地層境界	・地層境界の整合、不整合関係が認定できる場合は、その位置も併せて記載	・堆積構造	・層理、葉理、線化など	・土壌化など、堆積環境、時間関係を示すもの	・変形・傾斜	・割れ目やせん断面の走向・傾斜を記載	・その面を最も代表する箇所を指定するようにし、局所的に露出や劣化が変化している箇所では測定しない。	地質名		風化・変質	割れ目・せん断面割れ目	・断面中の高低毎の割れ目間隔、割れ目面の存在物の種類と幅及び色調、高低毎の代表的な割れ目の走向・傾斜、観察・素描などを記載	色調
	砂礫 礫率15~50% 花崗岩、花崗斑岩の角~歪角礫、径2~50mmの礫主体。 最大150mmの礫を含む。 基質は細~粗粒砂からなる。 混成は極めて悪い。 c レンズ状の砂層を挟む。また、一部に堆積構造が見られる。 径200~500mmの礫主体のシルト混じり砂層がハッチ状に分布する。 礫りが良い。 下位の2層との境界は明確に入り込んでいるため不整合関係であると考えられる。 土色(黄色) (SYR8/4) 灰白 (7.5YR8/2) 褐色 (10YR7)	-	○	○	-	-	-	○	○	-	○	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
	礫混じり砂質シルト 礫率10~20% 花崗岩、花崗斑岩の角~歪角礫、径50~200mmの礫を含む。 c 礫りを多く含む。 礫りが悪い。 土色(黄色) (SYR8/4) 灰白 (7.5YR8/2)	-	○	○	○	-	-	○	-	-	○	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
No.	破砕部に関する記事	適正化すべき記事内容	破砕帯										破砕帯				記事・スケッチを削除・変更・追記した理由				
			破砕部の性状		内部構造		断面区分		破砕域		最新活動面		変形		走向・傾斜						
			・破砕部の種類	・破砕部分物質	・層理	・破砕部の連続性・連続性	・層理の連続性・連続性	・層理の連続性・連続性	・層理の連続性・連続性	・層理の連続性・連続性	・層理の連続性・連続性	・層理の連続性・連続性	・層理の連続性・連続性	・層理の連続性・連続性	・層理の連続性・連続性	・層理の連続性・連続性		・層理の連続性・連続性			

スケッチ名D-1トレンチ 北西法面 1/50 下段(1/2) スケッチ

スケッチ原図に以下の情報が書かれているか  
 ・観察面の対象箇所名  
 ・観察面の枠  
 ・縮尺  
 ・方位、スケール(または、グリッドの間隔)

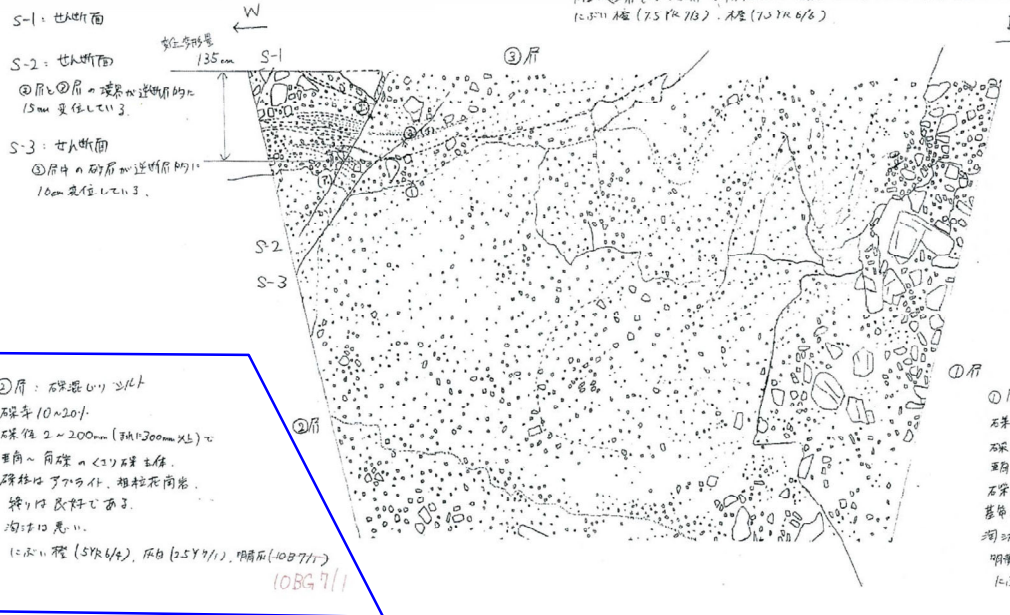
○

スケッチ

走向・傾斜・変位量

- ① b. N40W / 20SW
- ② f. N40E / 72NW (P) 厚44 / 10m 変位 (逆)
- ③ f. N48E / 60NW (P) 厚115m 変位 (逆)

- ①層: 砂礫  
 石径 10~20f. 主に石径 200mm 以下で 粗円~角礫を含む。  
 礫は花崗岩、花崗岩。  
 基岩は粗~粗粒砂で 粘り付く。一部に堆積物が見える。  
 淘洗は悪い。砂がシルト層を交代状に挟み、一部に堆積物が見える。  
 下位の②層とは、③層も角り辺で堆積していることから不整合面と見られる。  
 1:500 傾 (75 f/k 1/8)、水深 (70 f/k 1/8)



作成日・確認日: 2022年3月28日  
 確認者: [Redacted]

2m  
 法面勾配 45~60°

D-1 トレンチ 北西法面 1/50 下段 (1/2)

青枠：②層の色調に関する部分

2022 作成日 3/28 作成者 [Redacted] 確認者 [Redacted] 確認日 2022.3.28

Table with columns for sketch name, location, and various geological/stratigraphic characteristics. The table is divided into two main sections: 'Sketch Group (Stratigraphic)' and 'Sketch Group (Structural)'. The second row in the first section is highlighted with a blue border.



スケッチ名 D-1トレンチ 北西法面 1/50 下段(2/2) スケッチ

スケッチ原図に以下の情報が書かれているか  
 ・観察面の対象箇所名  
 ・観察面の枠  
 ・縮尺  
 ・方位、スケール(または、グリッドの間隔)

○

スケッチ

②層：砂礫

礫径 10 ~ 20%  
 主に礫径 300mm 以下で、亜角~亜円礫が主。  
 礫径は花崗岩、花崗岩。  
 基質は粗~相粒砂で粘りの多い。  
 淘洗は悪い。  
 砂層を挟み、一部に堆積層が認められる。  
 下位の①層と約 20cm で連続しているが、  
 不整合面と見られる。  
 1: 赤い砂 (75YR 7/2) . 2: 灰 (7.5YR 6/4)

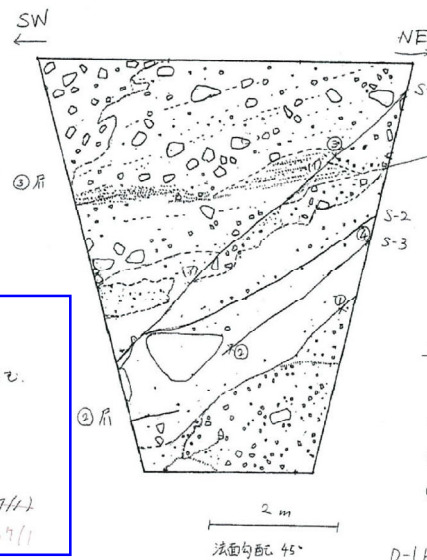
②層：礫混じりシルト

礫径 10 ~ 15%  
 礫径 2 ~ 300mm (約 500mm 以上) の亜角~角礫のシルトが主。  
 下部は礫が多くなる。  
 礫径は 75YR 7/2、相粒花崗岩。  
 粘りは良好である。  
 淘洗は悪い。  
 1: 赤い砂 (5YR 6/4) . 灰白 (2.5Y 7/1) . 明青灰 (10B 7/4-2  
 10B 7/1)

変位量

(7) 20cm

(1) 10cm



S-1: 土断

②層と①層の境界は、堆積物的に 20cm 変位している。  
 ②層中の砂層は、①層との 10cm 変位している。

S-2: 土断

下端で S-1 と合流

S-3: 土断

方位・傾斜

① b. N26E / 56NW

② f. N20E / 48NW

③ f. N4W / 64W

④ f. N2W / 44W

D-1HL24 北西法面 1/50 下段 (2/2)

作成日・確認日: 2022年3月28日

確認者: [REDACTED]



77 (スケッチ) のエビデンス (10/10)

スケッチ原因⇒報告書スケッチ記載記事チェックシート(D-1トレンチ 北西法面\_②層の記載)

No.	スケッチ原因		報告書スケッチの記事	
	地層の性状に関する記事 スケッチ原因から正しく転記されているか? <input checked="" type="checkbox"/>	適正化すべき記事内容 (変更箇所を朱書きで表示) (変更していないものは「-」で表示) 追加変更した情報が正しく転記されているか? <input checked="" type="checkbox"/>	選定した記事内容	スケッチ原因(地層の性状に関する記事)から選定した記事内容へ削除・変更・追記した理由 (スケッチ原因(地層の性状に関する記事)を適正化すべき記事内容としている場合は、それとの変更点)
スケッチ原因東側下段	礫混じり砂質シルト 礫率10~20%。 花崗岩、花崗斑岩の角~亜角礫、径50~200mmの礫を含む。 くさり礫を多く含む。 締まりが良い。 にぶい橙色(5YR6/4) 灰白(7.5YR8/2)			
北西法面下段(1/スケッチ原因下)	礫混じりシルト 礫率10~20% 礫径2~200mm(まれに300mm以上)で、亜角~角礫のくさり礫主体。 礫種はアブライト、粗粒花崗岩。 締まりは良好である。 淘汰は悪い。 にぶい橙(5YR6/4) 灰白(2.5Y7/1) 明青灰(10B7/1)	礫混じりシルト 礫率10~20% 礫径2~200mm(まれに300mm以上)で、亜角~角礫のくさり礫主体。 礫種はアブライト、粗粒花崗岩。 締まりは良好である。 淘汰は悪い。 にぶい橙(5YR6/4) 灰白(2.5Y7/1) 明青灰(10B7/1)	②層: 礫混じりシルト 礫径0.2~30cm(まれに50cm以上)で、亜角~角礫を含む。 礫種はアブライト、粗粒花崗岩からなる。礫率10~20%である。 にぶい橙色~明青灰色(5YR6/4~10BG7/1)を呈する。	・地層名は③層で最も広く分布する砂礫とした。 ・礫径は一部の砂礫を除けば概ね20cm以下である。また最大礫径も50cm程度の箇所が最も多い。 ・色調は、上段・下段で共通して確認された色調とした。また局所的な色調は不採用とした。
北西法面下段(2/スケッチ原因下)	礫混じりシルト 礫率10~15% 礫径2~300mm(まれに500mm以上)で、亜角~角礫のくさり礫を含む。 下部は礫を多く含む。 礫種はアブライト、粗粒花崗岩。 締まりは良好である。 淘汰は悪い。 にぶい橙(5YR6/4) 灰白(2.5Y7/1) 明青灰(10B7/1)	礫混じりシルト 礫率10~15% 礫径2~300mm(まれに500mm以上)で、亜角~角礫のくさり礫を含む。 下部は礫を多く含む。 礫種はアブライト、粗粒花崗岩。 締まりは良好である。 淘汰は悪い。 にぶい橙(5YR6/4) 灰白(2.5Y7/1) 明青灰(10B7/1)		

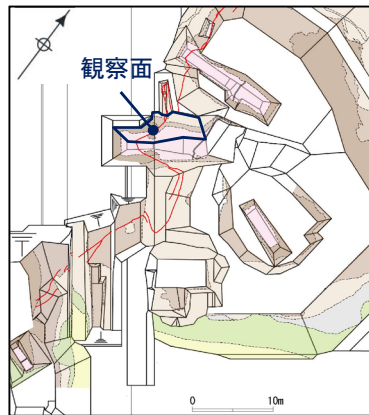
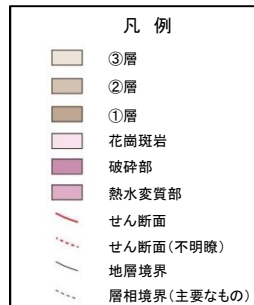
# K断層の性状(1-1ピット北面)

- 1-1ピット北面のスケッチを以下に示す。
- 1-1ピット北面では、K断層は基盤岩から堆積物(③層)までを逆断層的に変位させている。
- 基盤岩中では、K断層はN-S走向で高角度西傾斜である。最新活動面について複数の条線方向を統計的に整理した結果、縦ずれ成分が卓越する。

- ③層：砂礫を主体とする。浅黄橙色(7.5YR8/3)。礫率20~40%で径10cm以下の亜角礫からなる。淘汰は良い。基質は中~粗粒砂からなり、一部、細砂及びシルトからなり、細礫を含み、葉理が発達する。
- ②層：シルト質砂礫を主体とする。にぶい橙色(5YR7/4)。礫率15~25%で径10~70cm程度の角~亜角礫からなる。基質はシルト及び中~細粒砂からなる。上部には砂礫混じりシルトが分布し、主に粘土、シルト、細粒砂からなる。また、下部の一部には、シルト質砂礫が分布している。
- ①層：砂礫を主体とする。浅黄橙色(7.5YR7/3)。礫率30~60%で径30cm以下(最大径50cm)の亜角礫からなる。淘汰は極めて悪い。基質は中~極粗粒砂からなる。
- Gp：花崗斑岩：浅黄橙色(7.5YR8/4)。全体に風化を受け、一部、土砂状を呈する。また、断層周辺部では、花崗斑岩質カタクレサイトが分布し、礫状及びシルト質砂状を呈する。全体的に変質している。

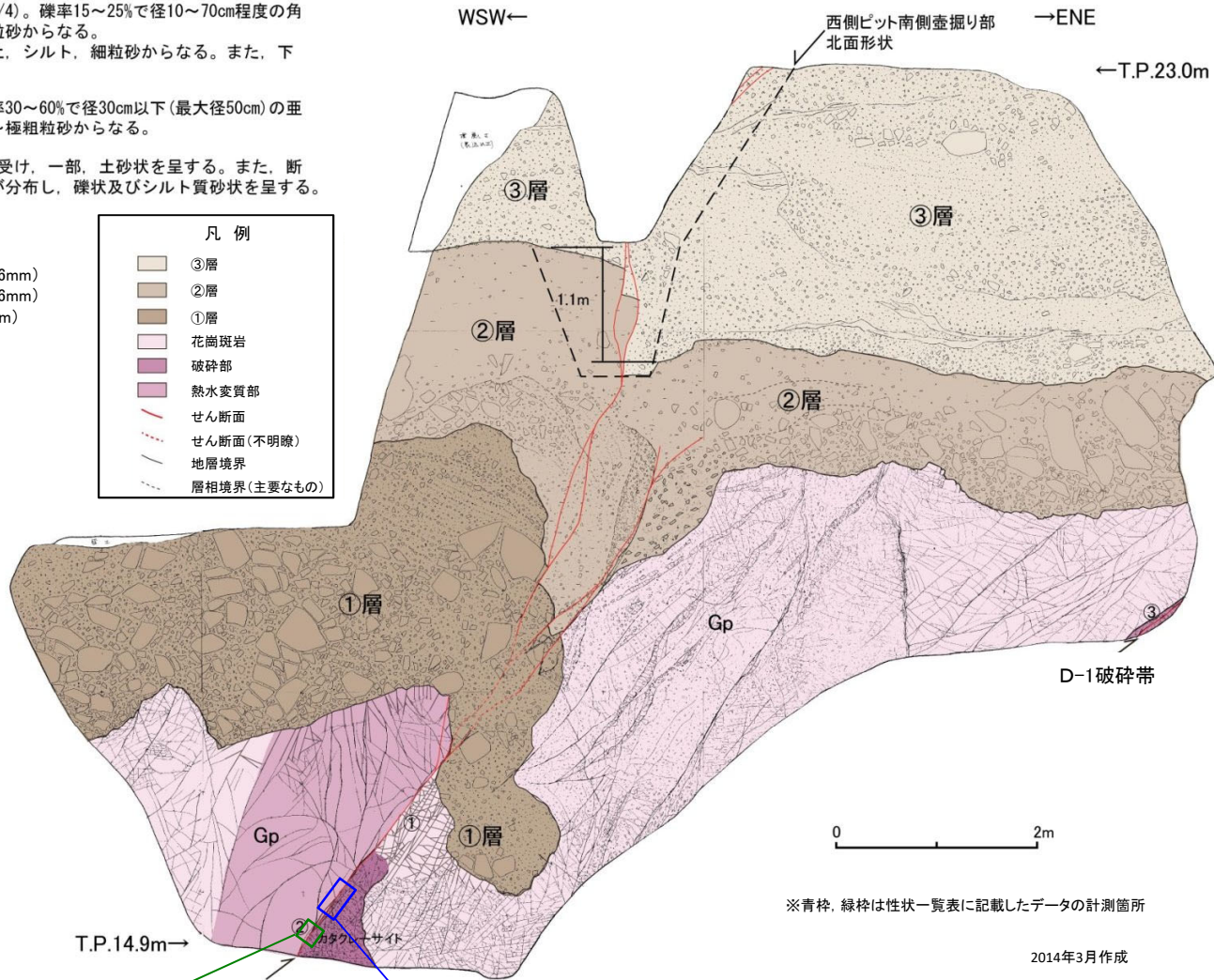
- ①：f: N14° W64° W 断層ガウジ(灰褐色粘土：幅2~6mm)  
 ②：f: N10° W61° W 断層ガウジ(灰褐色粘土：幅3~6mm)  
 ③：f: N6° E65° W 断層ガウジ(橙色粘土：幅2~15mm)

f: せん断面



調査位置図

断層ガウジ・断層角礫の幅計測箇所(1-1ピット北面)



※青枠、緑枠は性状一覧表に記載したデータの計測箇所

2014年3月作成

走向・傾斜、条線方向計測箇所(1-1ピット北面：12箇所のデータを平均化)

# K断層の性状(1-1ピット北面)

79 : ①層の色調修正

修正後

- 1-1ピット北面のスケッチを以下に示す。
- 1-1ピット北面では、K断層は基盤岩から堆積物(③層)までを逆断層的に変位させている。
- 基盤岩中では、K断層はN-S走向で高角度西傾斜である。最新活動面について複数の条線方向を統計的に整理した結果、縦ずれ成分が卓越する。

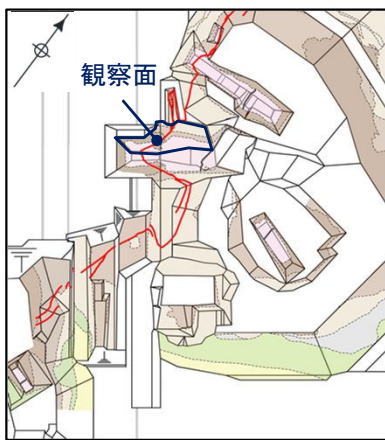
- ③層:砂礫を主体とする。浅黄橙色(7.5YR8/3)。礫率20~40%で径10cm以下の亜角礫からなる。淘汰は良い。基質は中~粗粒砂からなり、一部、細砂及びシルトからなり、細礫を含み、葉理が発達する。
- ②層:シルト質砂礫を主体とする。にぶい橙色(5YR7/4)。礫率15~25%で径10~70cm程度の角~亜角礫からなる。基質はシルト及び中~細粒砂からなる。上部には砂礫混じりシルトが分布し、主に粘土、シルト、細粒砂からなる。また、下部の一部には、シルト質砂礫が分布している。
- ①層:砂礫を主体とする。浅黄橙色(7.5YR8/3)。礫率30~60%で径30cm以下(最大径50cm)の亜角礫からなる。淘汰は極めて悪い。基質は中~極粗粒砂からなる。
- Gp:花崗斑岩:浅黄橙色(7.5YR8/4)。全体に風化を受け、一部、土砂状を呈する。また、断層周辺部では、花崗斑岩質の変質したカタクレーサイトが分布し、礫状及びシルト質砂状を呈する。花崗斑岩質の変質したカタクレーサイトは全体的に変質し、やや軟質でカタクレーサイトの特徴が認められる。また細粒部は網目状に分布する。

- ①:f:N14° W64° W 断層ガウジ(灰褐色粘土:幅2~6mm)軟質。
- ②:f:N10° W61° W 断層ガウジ(灰褐色粘土:幅3~6mm)軟質。
- ③:f:N6° E65° W 断層ガウジ(橙色粘土:幅2~15mm)軟質。

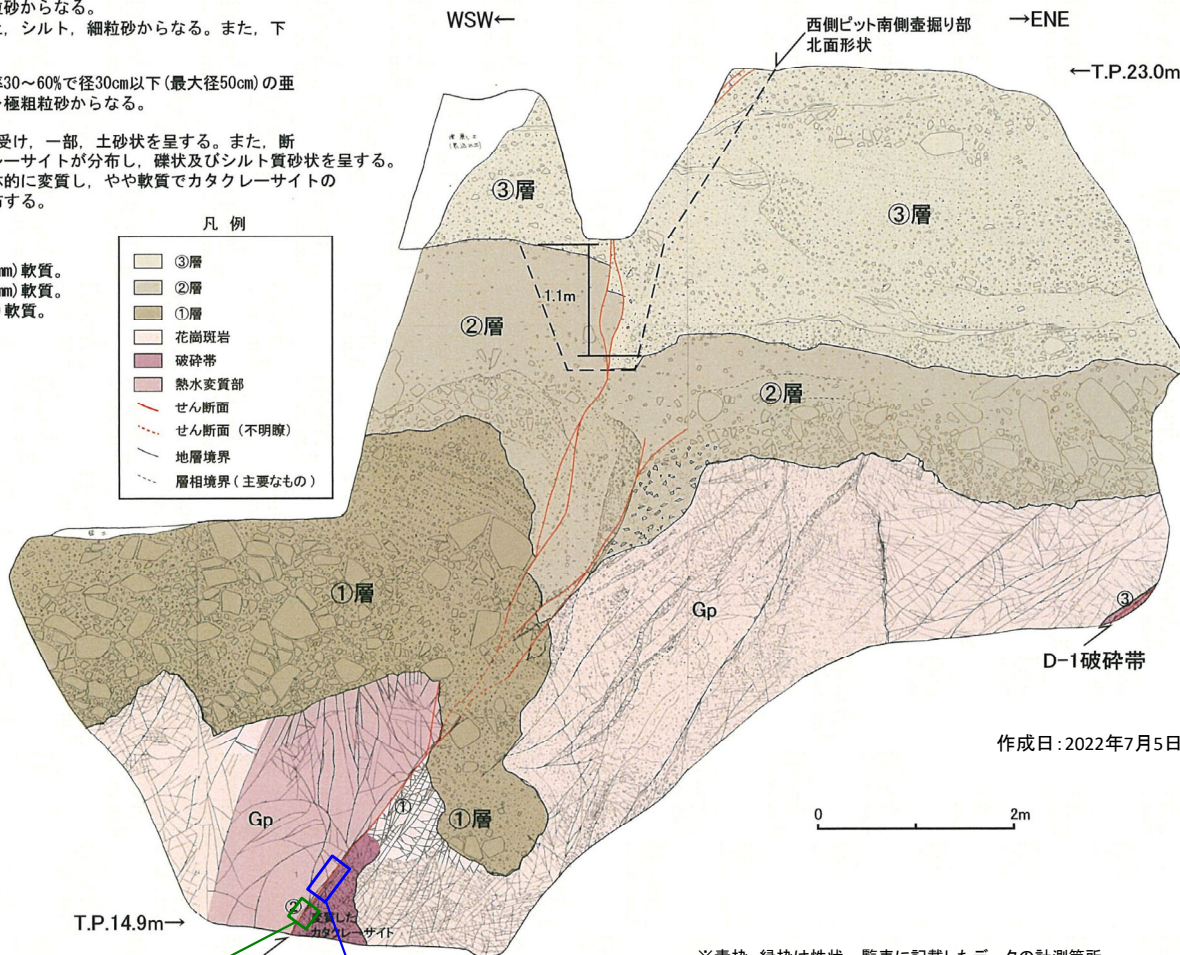
f:せん断面

凡例

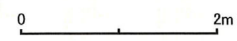
③層	②層	①層	花崗斑岩	破碎帯	熱水変質部	せん断面	せん断面(不明瞭)	地層境界	層相境界(主要なもの)
(浅黄橙色)	(にぶい橙色)	(浅黄橙色)	(浅黄橙色)	(赤褐色)	(赤褐色)	(赤線)	(赤点線)	(黒線)	(黒点線)



調査位置図



作成日:2022年7月5日



※青枠、緑枠は性状一覧表に記載したデータの計測箇所

断層ガウジ・断層角礫の幅計測箇所(1-1ピット北面)

走向・傾斜、条線方向計測箇所(1-1ピット北面:12箇所のデータを平均化)

スケッチ名 D-1トレンチ 1-1ピット北面 1/20 ③スケッチ

スケッチ原図に以下の情報が書かれているか

- 観察面の対象箇所名
- 観察面の枠
- 縮尺
- 方位、スケール(または、グリッドの間隔)

○

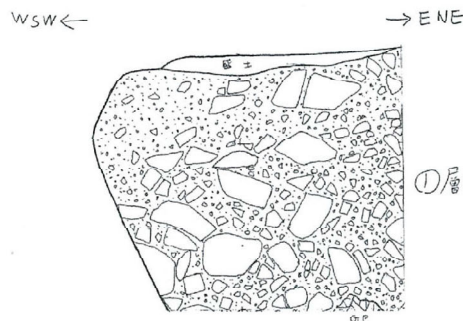
スケッチ

①層

- ・ 砂礫主体  $\frac{8}{3}$
- ・ 浅黄橙 (7.5YR7/3)
- ・ 径20cm以下の亜角礫主体, 最大径40cm
- ・ 礫率30~60%
- ・ 濁汰は悪い
- ・ 基盤は中~極粒粒砂が主

G/P

- ・ 風化花崗斑岩
- ・ 浅黄橙 (7.5YR7/3)



作成日・確認日：2022年3月28日  
 確認者：[Redacted]

0 1m  
 法面勾配 70~75°  
 D-1トレンチ 1-1ピット北面 1/20 ③



スケッチ名 D-1トレンチ 1-1ピット北面 1/20 ④スケッチ

スケッチ原図に以下の情報が書かれているか  
 ・観察面の対象箇所名  
 ・観察面の枠  
 ・縮尺  
 ・方位、スケール(または、グリッドの間隔)

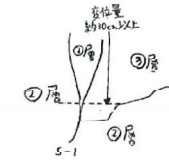
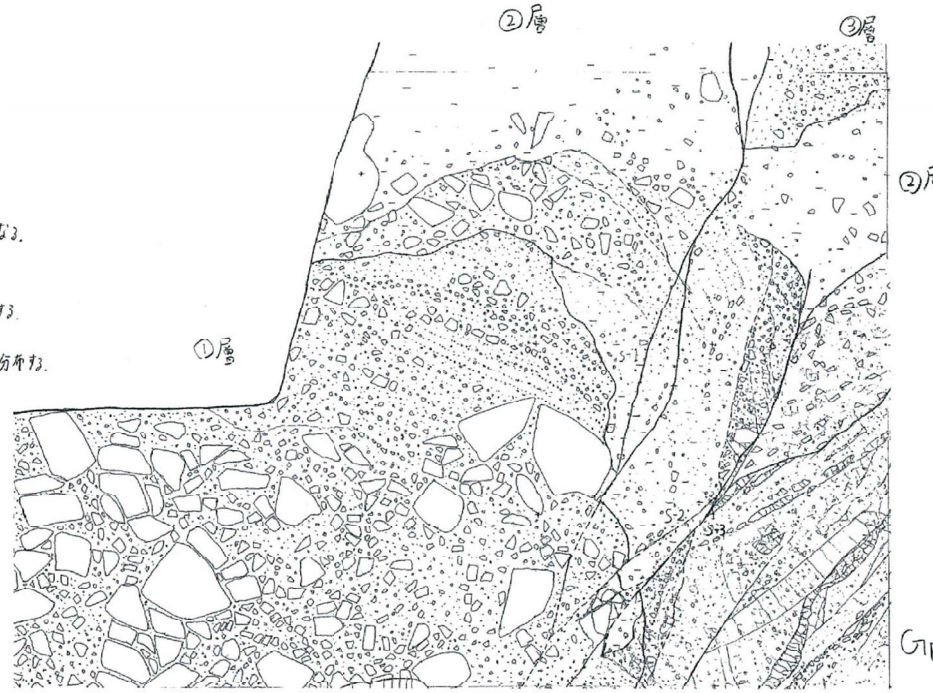
○

スケッチ

- ③層
- ・石少石礫主体
  - ・浅黄橙 (7.5YR 8/3)
  - ・径 10cm 以下の亜角石礫からなる
  - ・石礫率 20%
  - ・淘し跡は良い
  - ・基質は中~粗粒砂からなる

- ②層
- ・シルト質砂礫主体
  - ・濃い橙色 (5YR 7/4)
  - ・径 10~70cm 程度の角~亜角石礫からなる
  - ・石礫率 15~25%
  - ・基質はシルト及び中~粗粒砂からなる
  - ・上部には石少石礫混じりシルト状からなる
  - ・主に粘土、シルト、細粒砂からなる
  - ・下部の一部には、シルト質砂礫が分布する

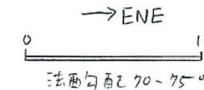
- ①層
- ・石少石礫主体 8/3
  - ・浅黄橙 (7.5YR 8/3)
  - ・径 30cm 以下の亜角石礫主体、最大径 50cm
  - ・石礫率 30~60%
  - ・淘し跡は極めて悪い
  - ・上部には堆積物が見える
  - ・基質は中~粗粒砂からなる



- S-1 せん断面
- ・②層と③層の境界と
  - ・逆断層跡は 20cm 以上 40cm 以上 変位した。
  - ・②層中に 2条 分布する。
- S-2 せん断面
- ・①層と②層の境界と逆断層跡は 10cm 変位した。
- S-3 せん断面

- G.P
- ・花崗斑岩
  - ・浅黄橙 (7.5YR 8/4)
  - ・全体に風化を受け、一部土砂状を呈する。

作成日・確認日：2022年3月28日  
 確認者：[Redacted]



D-1トレンチ 1-1ピット北面 1/20 ④



青枠：①層の色調に関する部分

79のエビデンス (4/10)

2022  
作成日 3/28 作成者 [Redacted] 確認者 [Redacted] 確認日 2022.3.28

スケッチ名 D-1トレンチ 1-1ピット北面 1/20 透記筆

No	地層の性状に関する記事	適正化すべき記事内容	スケッチ原図(第四系)										スケッチ原図(基盤岩)		記事・スケッチを削除・変更・追記した理由	
			地質名	粒度構成、礫の形状、粘性・凝集、締まり具合	種の風化度	地質の特徴 ・含有物(有機質、頁岩など) ・その他、周囲と異なる状況や特徴的な状況があれば、それらについて記載。	地層境界 ・地層境界の整合、不整合状態が想定できる場合は、その種類も併せて記載。	埋積構造 ・腐植、葉理、風化など	土質化など、埋積環境、時間関係など、色調を示すもの	走向・傾斜 ・走向構造やせん断面の走向構造を記載。 ・その面を最も代表する箇所を指定する(ただし、局所的に凹凸や方向が変化している箇所では測定しない)。	割れ目、せん断割れ目 ・割れ目内の充填物の種類や充填量、充填系統毎の代表的な割れ目の走向・傾斜、割れ目、充填などを記載。	色調	走向・傾斜 ・その面を最も代表する箇所を指定する(ただし、局所的に凹凸や方向が変化している箇所では測定しない)。	色調		
	透黄褐色(7.5YR8/3)の砂礫主体である。 ① 標準20cmで、径10cm以下の歪角礫からなる。 ② 実法は厚い。 ③ 基質は中～粗粒砂からなる。	-	○	○	-	-	-	○	-	-	-	-	-	-	-	-
	に白い褐色(5.5YR7/4)のシルト質砂礫を主体とする。 ① 標準15～25cmで、径10～70cm程度の角～歪角礫からなる。 ② 実質はシルト質中～粗粒砂からなる。 ③ 上部には砂礫混じりシルトが分布する。主に粘土、シルト、細粒砂からなる。 下部の一部には、シルト質砂礫が分布する。	-	○	○	-	-	-	○	-	-	-	-	-	-	-	-
	透黄褐色(7.5YR8/3)の砂礫主体である。 ① 標準30～40cmで、径20cm以下を主体とし最大径50cmの歪角礫からなる。 ② 実法は極めて厚い。 ③ 上部には埋積構造がみられる。 ④ 基質は中～粗粒砂からなる。	透黄褐色(7.5YR8/3)の砂礫主体である。 標準30～40cmで、径20cm以下を主体とし最大径50cmの歪角礫からなる。 実法は極めて厚い。 上部には埋積構造がみられる。 基質は中～粗粒砂からなる。	○	○	-	-	-	○	○	-	○	-	-	-	-	色調(透黄褐色)と色調を示す記事(埋積構造)が重複している。当該記事を削除し、色調(透黄褐色)が正しい。色調を示す記事の書き間違いであると判断した。
	① 花崗岩質。透黄褐色(7.5YR8/4) ② 全体に風化を受け、一部土砂状を呈する。	-	-	-	-	-	-	-	-	-	○	○	-	○	-	

No	境界部に関する記事	適正化すべき記事内容	境界部										記事・スケッチを削除・変更・追記した理由	
			境界部区分(162.16.16)	境界部の性状 ・境界部の種類 ・境界部の物質 ・境界部の連続性・連続性 ・境界部が認められる部分の性状を主体とし、基質も細粒化した薄片からなる境界の有無	内部構造 ・埋積構造、埋合面構造、葉理構造、崩れ状など	埋合面構造 ・埋合面構造、葉理構造、崩れ状などに区分し記載。	新層区分 ・新層の区分、新層の厚さ、崩れ・カダラーアイ(実測できる場合)などに区分し記載。	境界部 ・境界部(実測できる場合)に区分し記載。	原形活動面 (認められた場合)	染線	実法・実形量 ・実法・実形量について計測した実法・実形量	色調		走向・傾斜 ・その面を最も代表する箇所を指定する(ただし、局所的に凹凸や方向が変化している箇所では測定しない)。
p-1	せん断面 ① 2層と3層の境界を近断層的にみかけ約10cm実法させる。 ② 層中で区別させる。	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	○	-	-
p-2	せん断面 ① 2層と3層の境界を近断層的にみかけ約10cm実法させる。	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	○	-	-
p-3	せん断面	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	○	-	-

スケッチ名 D-1トレンチ 1-1ピット北面 1/20 ⑥スケッチ

スケッチ原図に以下の情報が書かれているか

- ・観察面の対象箇所名
- ・観察面の枠
- ・縮尺
- ・方位、スケール(または、グリッドの間隔)

○

①層

- ・石少 砕粒体 <sup>8/3</sup>
- ・浅黄橙 (7.5 YR 7/3)
- ・径 20cm以下の亜角石礫主体, 最大径 30cm
- ・石礫率 30~60%
- ・淘洗は悪い
- ・基質は中~粗粒砂が混入

Gp

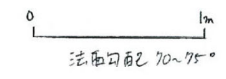
- ・風化花崗斑岩
- ・浅黄橙 (7.5 YR 6/6)

スケッチ



ws w ←

→ENE



作成日・確認日：2022年3月28日  
 確認者：[REDACTED]

D-1トレンチ 1-1ピット北面 1/20 ⑥

青枠：①層の色調に関する部分

79のエビデンス (6/10)

2022  
作成日 3/28 作成者 [Redacted] 確認者 [Redacted] 確認日 2022.3.28

No.	スケッチ名: D-11レンチ 1-1ピット北面 1/20 ①記事	地層の地質に関する記事	適正化すべき記事内容	スケッチ原図(第四系)											スケッチ原図(基盤岩)	記事・スケッチを削除・変更・追記した理由				
				地質の特徴				地層構造				土壌化など、地層構造・地層構造を色調示すもの					地質名	風化・変質	色調	
				地質名	・粒度構成、層の連続性、層の厚さ、層の厚さ、層の厚さ	・層の風化、含有物(有機質、具類など)	・その他、層間と異なる状況の特異的な状況があれば、それらについて記載。	・地層境界の整合・不整合、地層構造	・地層構造、整合正構造、異常構造、褶曲など	・土壌化など、地層構造・地層構造を色調示すもの	・土壌化など、地層構造・地層構造を色調示すもの	・土壌化など、地層構造・地層構造を色調示すもの	・土壌化など、地層構造・地層構造を色調示すもの							
		① 活質橙色(7.5YR7/3)の砂礫主体である。② 礫径30-60cmで、径20cm以下を主体とし最大径30cmの歪角礫からなる。③ 濁泥は無い。④ 基質は中-極粗粒砂からなる。	活質橙色(7.5YR8/3)の砂礫主体である。礫径30-60cmで、径20cm以下を主体とし最大径30cmの歪角礫からなる。③ 濁泥は無い。④ 基質は中-極粗粒砂からなる。	○	○	-	-	-	○	-	-	-	○	-	-	-	-	-	色調(活質橙色)と色調を示す記号(7.5YR7/3)が整合していない。法面写真も確認。色調(活質橙色)が正しく、色調を示す記号の書き間違いであると判断した。	
Qp		風化花崗岩: 活質橙色(7.5YR8/4)	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	○	○	-	-	○	-	
No.		破砕部に関する記事	適正化すべき記事内容	破砕帯											記事・スケッチを削除・変更・追記した理由					
				破砕区分(Hc-Hs)	破砕部の性状 ・破砕部の種 ・破砕部の物質 ・破砕部の連続性・連続性 ・原岩組織が認められる破片を主体とし基質も細粒化した破片からなる層の存在	内部構造 ・破砕構造、整合正構造、異常構造、褶曲など	新層区分 ・新層がウジ・新層角礫・カクレ・サイ (実測できる場合) に要し、記載	破砕帯 角礫・カクレ・サイ (実測できる場合) に要し、記載	露新活動層 (認定した場合)	条線	変位・変形量 ・露新帯に沿って計測した変位・変形量	色調	色調	走向・傾斜 ・その面をも代表する層所で測定する。あるいは、主断面断面について傾斜角で測定する。						
				-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-

スケッチ名 D-1トレンチ 1-1ピット北面 1/20 ⑦スケッチ

スケッチ原図に以下の情報が書かれているか  
 ・観察面の対象箇所名  
 ・観察面の枠  
 ・縮尺  
 ・方位、スケール(または、グリッドの間隔)

○

①層

- ・石少不礫主体 砂
- ・浅黄褐色 (7.5YR 7/4)
- ・径 30cm 以下の重角礫主体  
最大径 40cm
- ・礫率 30~60%
- ・洞孔は極めて多い
- ・基盤は中~極粗粒砂からなる。

Gp-1

- ・花崗斑岩
- ・浅黄褐色 (7.5YR 7/4)
- ・全体に風化を受け、一部土砂状を呈す。

Gp-2

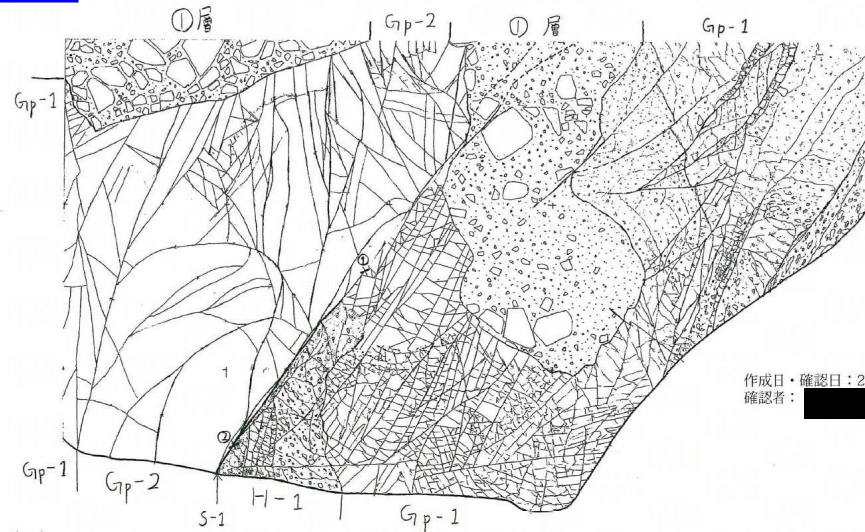
- ・花崗斑岩
- ・浅黄褐色 (7.5YR 7/4)
- ・全体に風化を受け、一部土砂状を呈す。
- ・全体的に変質している。

H-1

- ・~~カタラーサイト~~ 変質したカタラーサイト
- ・灰白色 (7.5YR 8/2), 浅黄褐色 (7.5YR 7/4)
- ・礫質, シルト質砂状 H<sub>2</sub>
- ・全体に風化を受け脱色, やや軟質
- ・カタラーサイトの特徴が認められる。
- ・糸田粒部は糸田状に分布する。

・原岩組織が認められる  
 岩片を主体とし基質と組織化した  
 した岩片からなる組織は一部で  
 認められる。

スケッチ



確認日 (変質したカタラーサイト)

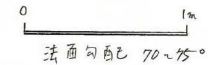
2022年7月5日

作成日・確認日: 2022年3月28日  
 確認者: [Redacted]

確認者 [Redacted]

WSW ←

→ ENE



S-1 土人断面

- ・粘土
- ・灰褐色 (7.5YR 4/2)
- ・中層 3~9mm (代表的な中層: 5mm)
- ・迷入層カウジ
- ・軟泥質
- ・若干湾曲状が面はシ-フ

Hc-1

- ・直線的
- ・原岩組織が認められる岩片を主体とし  
基質と組織化した岩片からなる組織は  
認められる。
- ・塊状構造を呈し全体的に粗粒を  
持つ。糸田粒部を伴す。

① f: N7W54W

- ・灰褐色粘土 Hc-1
- ・中層 2~6mm 直線的
- ・迷入層カウジ
- ・軟泥質
- ・: (原岩組織 - ない)

② f: N3W61W

- ・灰褐色粘土 Hc-1
- ・中層 3~6mm 直線的
- ・迷入層カウジ
- ・軟泥質
- ・: (原岩組織 - ない)

D-1トレンチ 1-1ピット北面 1/20 ⑦



スケッチ原因⇒報告書スケッチ記載記事チェックシート(D-1トレンチ 1-1ピット北面 ①層の記載)

作成日 2022/7/5 作成者

確認日 2022.7.5 確認者

No.	スケッチ原因	報告書スケッチの記事	
	地層の性状に関する記事 スケッチ原因から正しく転記されているか? <input checked="" type="checkbox"/>	適正化すべき記事内容 (変更箇所を赤字で表示) (変更していないものは「-」で表示) 追加変更した情報が正しく転記されている <input checked="" type="checkbox"/>	選定した記事内容
スケッチ原因③	浅黄橙色(7.5YR7/3)の砂礫主体である。 礫率30~60%で、径20cm以下を主体とし最大径40cmの垂角礫からなる。 淘汰は悪い。 基質は中~極粗粒砂からなる。	浅黄橙色(7.5YR8/3)の砂礫主体である。 礫率30~60%で、径20cm以下を主体とし最大径40cmの垂角礫からなる。 淘汰は悪い。 基質は中~極粗粒砂からなる。	
スケッチ原因④	浅黄橙色(7.5YR7/3)の砂礫主体である。 礫率30~60%で、径30cm以下を主体とし最大径50cmの垂角礫からなる。 淘汰は極めて悪い。 上部では堆積構造がみられる。 基質は中~極粗粒砂からなる。	浅黄橙色(7.5YR8/3)の砂礫主体である。 礫率30~60%で、径30cm以下を主体とし最大径50cmの垂角礫からなる。 淘汰は極めて悪い。 上部では堆積構造がみられる。 基質は中~極粗粒砂からなる。	①層: 砂礫を主体とする。浅黄橙色(7.5YR8/3)。礫率30~60%で径30cm以下(最大径50cm)の垂角礫からなる。淘汰は極めて悪い。基質は中~極粗粒砂からなる。 ・最大の礫径は、観察面で最大となるスケッチ原因④の記載(50cm)を採用した。 ・淘汰度は、①層が最も広く観察されるスケッチ④の記載(極めて悪い)を採用した。 ・色調(浅黄橙色)と色調を示す記号(7.5YR7/3)が整合していない。観察面の写真を確認し、色調(浅黄橙色)が正しく、色調を示す記号の書き間違いであると判断した。
スケッチ原因⑥	浅黄橙色(7.5YR7/3)の砂礫主体である。 礫率30~60%で、径20cm以下を主体とし最大径30cmの垂角礫からなる。 淘汰は悪い。 基質は中~極粗粒砂からなる。	浅黄橙色(7.5YR8/3)の砂礫主体である。 礫率30~60%で、径20cm以下を主体とし最大径30cmの垂角礫からなる。 淘汰は悪い。 基質は中~極粗粒砂からなる。	
スケッチ原因⑦	浅黄橙色(7.5YR7/3)の砂礫主体である。 礫率30~60%で、径30cm以下を主体とし最大径40cmの垂角礫からなる。 淘汰は極めて悪い。 基質は中~極粗粒砂からなる。	浅黄橙色(7.5YR8/3)の砂礫主体である。 礫率30~60%で、径30cm以下を主体とし最大径40cmの垂角礫からなる。 淘汰は極めて悪い。 基質は中~極粗粒砂からなる。	

D-1トレンチ1-1ピット北面写真

79のエビデンス (10/10)

2013年6月撮影

WSW←

→ENE



拡大写真: 北面

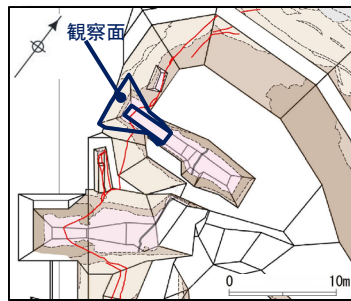
2m

1-1トレンチ北面写真

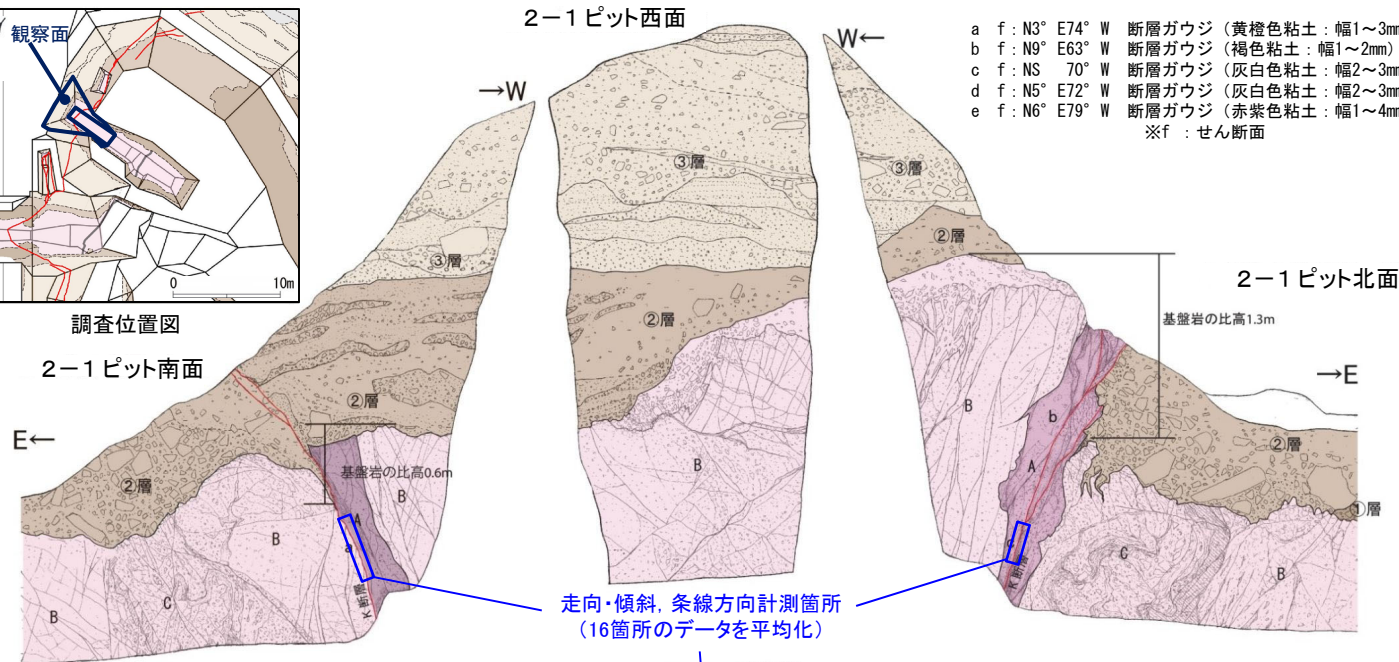
# K断層の性状(2-1ピット)

修正箇所：橙色枠

- 2-1ピットのスケッチを以下に示す。
- 2-1ピットでは、K断層は基盤岩から堆積物(②層)までを変位させている。
- 最新活動面について複数の条線方向を統計的に整理した結果、縦ずれ成分が卓越する。また、最新活動面の薄片観察による変位センスは逆断層センスである。



調査位置図



- a f : N3° E74° W 断層ガウジ (黄橙色粘土: 幅1~3mm) 条線 (rake)=67° R
- b f : N9° E63° W 断層ガウジ (褐色粘土: 幅1~2mm)
- c f : NS 70° W 断層ガウジ (灰白色粘土: 幅2~3mm)
- d f : N5° E72° W 断層ガウジ (灰白色粘土: 幅2~3mm)
- e f : N6° E79° W 断層ガウジ (赤紫色粘土: 幅1~4mm)
- ※ f : せん断面

基盤岩  
(花崗斑岩)

- A: 花崗斑岩質カクレーサイト: 砂質シルト~礫混じりシルト質砂状。やや軟質。全体的に変質を受けている。
- B: 風化花崗斑岩: 浅黄橙色 (7.5YR8/4~7.5YR8/6)。主にやや脆弱な角礫状。
- C: 花崗斑岩 (破碎質部): 黒褐色~浅黄橙色 (7.5YR3/2~7.5YR8/6)。主に砂質細礫状。部分的に砂質シルト~シルト質砂状を呈する。
- ②層: 礫混じり砂質シルト: 明褐色~明褐灰色 (7.5YR7/1~7.5YR8/6)。礫は径5cm以下の風化礫。下部ほど細粒。シルト質砂礫: 礫径50cm以下の垂魚礫を含む。
- ③層: 礫混じりシルト質細砂: 橙~浅黄橙色、灰白色 (5YR7/8~7.5YR8/2)。基質はシルト、細~中砂主体。砂礫層をレンズ状に挟み、淘汰が悪い。礫は径5cm以下の風化花崗斑岩の垂魚礫主体。径15cmのものも見られる。

凡例	
[Symbol]	③層
[Symbol]	②層
[Symbol]	花崗斑岩
[Symbol]	破碎部
[Symbol]	熱水変質部
[Symbol]	せん断面
[Symbol]	せん断面 (不明瞭)
[Symbol]	地層境界

0 1(m)

※青枠, 緑枠は性状一覧表に記載したデータの計測箇所

断層ガウジ・断層角礫の幅計測箇所

2-1ピット底盤

2013年4月作成



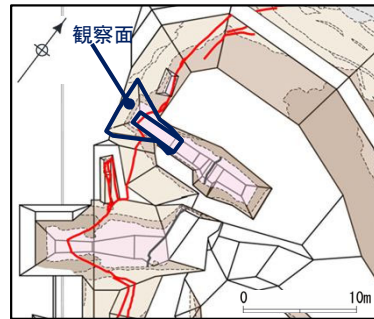
# K断層の性状(2-1ピット)

80 : ②層の色調修正  
③層の色調修正

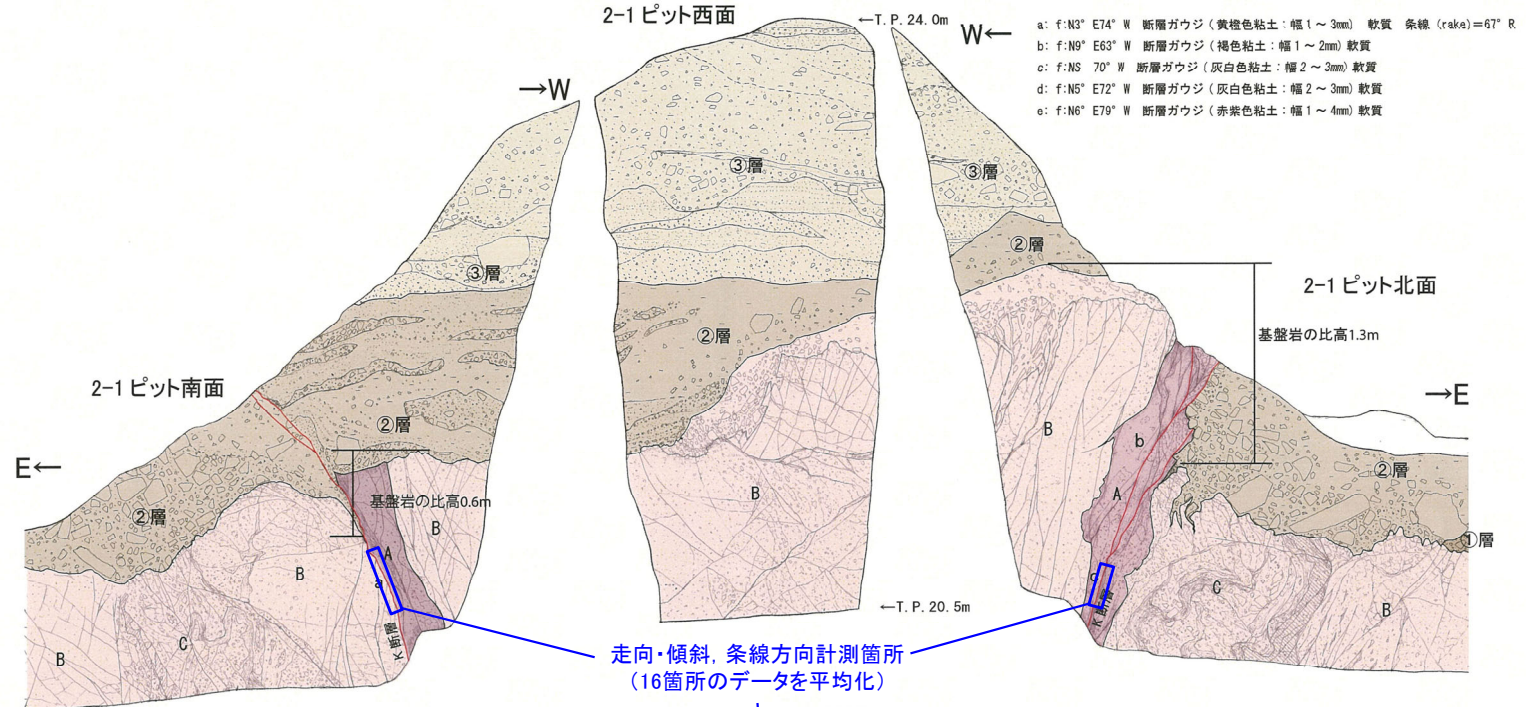
修正後

第833回審査会合  
資料1 修正

- 2-1ピットのスケッチを以下に示す。
- 2-1ピットでは, K断層は基盤岩から堆積物(②層)までを変位させている。
- 最新活動面について複数の条線方向を統計的に整理した結果, 縦ずれ成分が卓越する。また, 最新活動面の薄片観察による変位センスは逆断層センスである。

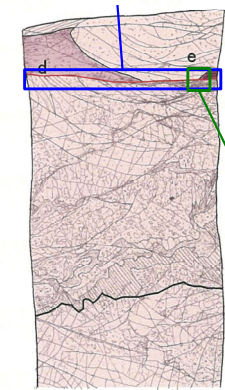


調査位置図

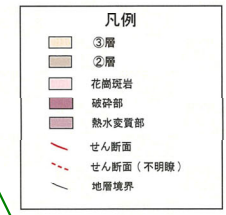


走向・傾斜, 条線方向計測箇所  
(16箇所のデータを平均化)

- 基盤岩 (花崗斑岩)
- A: 花崗斑岩質の変質したカタクレーサイト: 浅黄褐色~灰白色 (7.5YR8/3 ~ 7.5YR8/1)。砂質シルト~礫混じりシルト質砂状。やや軟質。全体的に変質を受けている。カタクレーサイトの特徴が認められる。
  - B: 風化花崗斑岩: 浅黄褐色 (7.5YR8/4 ~ 7.5YR8/6)。主にやや脆弱な角礫状。
  - C: 花崗斑岩 (破碎質部): 黒褐色~浅黄褐色 (7.5YR3/2 ~ 7.5YR8/6)。主に砂質細礫状。部分的に砂質シルト~シルト質砂状を呈する。
- ②層: 礫混じり砂質シルト | 明褐色~浅黄褐色 (7.5YR7/1 ~ 7.5YR8/6)。  
 礫は径5cm以下の風化礫。下部ほど細粒。  
 シルト質砂礫: 礫径50cm以下の垂角礫を含む。
- ③層: 礫混じりシルト質細砂: 橙~浅黄褐色, 灰白色 (5YR7/8 ~ 7.5YR8/6, 7.5YR8/2)。  
 基質はシルト、細~中砂主体。砂礫層をレンズ状に挟み 淘洗が悪い。  
 礫は径5cm以下の風化花崗斑岩の垂角礫主体。径15cmのものも見られる。



2-1ピット底盤



断層ガウジ・断層角礫の幅計測箇所

※青枠, 緑枠は性状一覧表に記載したデータの計測箇所

作成日: 2022年7月5日

青枠：②層，③層の色調に関する部分

80のエビデンス (1/13)

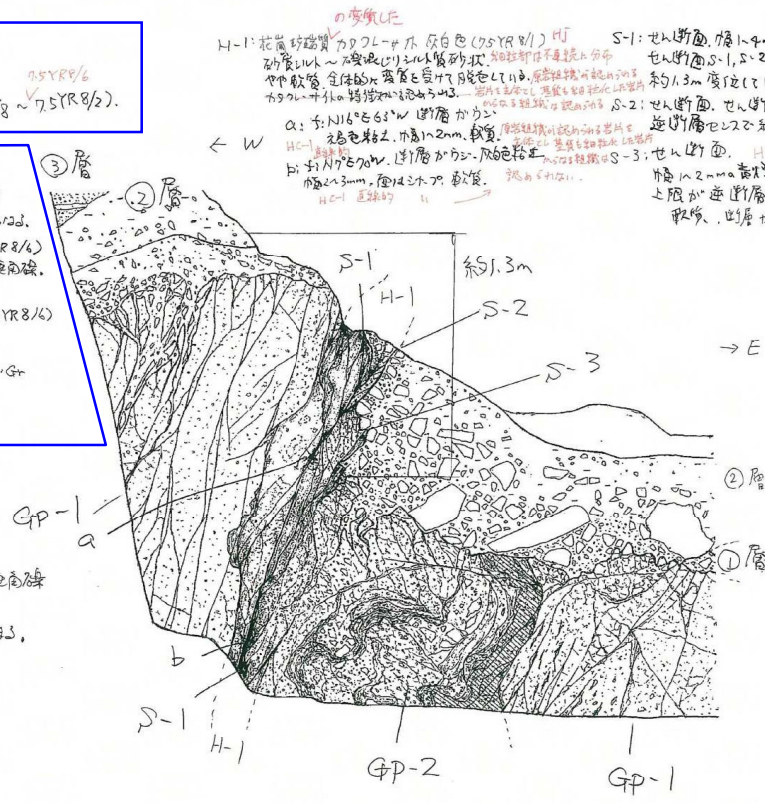
スケッチ名：D-1トレンチ 2-1ピット 1/20 北面下部(1/6) スケッチ

スケッチ原因に以下の情報が書かれているか ・観察面の対象箇所名 ・観察面の枠 ・縮尺 ・方位、スケール(または、グリッドの間隔) ・観察年月日、観察者
○

③層  
 7.5YR 7/6  
 7.5YR 8/2  
 7.5YR 8/6  
 7.5YR 8/2

②層  
 破砕した砂質シルト質砂礫  
 主に上部が、破砕した砂質シルト質砂礫。  
 明褐色～明褐色 (7.5YR 7/1～7.5YR 8/4)  
 礫は径5cm以下の風化Gp-Grの角礫。  
 下部はシルト質砂礫質砂礫。  
 明褐色～明褐色 (7.5YR 7/1～7.5YR 8/4)  
 礫率 50～60%  
 礫は径5cm以下の風化Gp-Gr  
 角礫質砂礫。  
 黄土質シルト質砂礫。

①層  
 砂礫  
 黄褐色 (7.5YR 7/8)  
 礫率 50%  
 主に径5～20cmの風化Gp-Grの角礫  
 礫は径5cm以下の風化  
 礫質は主に中～粗砂質と認められる。



の破砕した  
 H-1: 花崗岩質砂礫質カワクレイ灰白色 (7.5YR 8/1) HJ  
 砂質シルト～砂質シルト質砂礫状。礫は径5cm以下の風化Gp-Grの角礫。  
 中～粗砂質。全体の礫率50%。黄褐色 (7.5YR 7/1～7.5YR 8/4)  
 下部はシルト質砂礫質砂礫。明褐色～明褐色 (7.5YR 7/1～7.5YR 8/4)  
 礫率50～60%。礫は径5cm以下の風化Gp-Grの角礫。  
 黄土質シルト質砂礫。  
 S-1: せん断面。厚1.2～2.0mの灰白色粘土。軟質。逆断層面。H-1 直線状  
 せん断面S-1, S-2, S-3は互いに、互に並行。上層が逆断層面として  
 厚約1.3m厚位(約1.5m)分岐している。S-2, S-3は互いに並行。上層が  
 逆断層面として厚約1.3m厚位(約1.5m)分岐している。S-1は分岐している。  
 S-2: せん断面。せん断面S-1, S-2, S-3より互に並行。上層が  
 逆断層面として厚約1.3m厚位(約1.5m)分岐している。S-1は分岐している。  
 H-1: 直線状  
 厚約1.2mmの黄褐色粘土。せん断面。H-1 直線状  
 厚約1.2mmの黄褐色粘土。せん断面S-1, S-2, S-3は互に並行。上層が  
 逆断層面として厚約1.3m厚位(約1.5m)分岐している。S-1は分岐している。  
 厚約1.2mmの黄褐色粘土。せん断面。H-1 直線状  
 厚約1.2mmの黄褐色粘土。せん断面S-1, S-2, S-3は互に並行。上層が  
 逆断層面として厚約1.3m厚位(約1.5m)分岐している。S-1は分岐している。

GP-1  
 風化花崗岩質砂礫  
 黄褐色 (7.5YR 8/4～7.5YR 8/6)  
 主に中～粗砂質と認められる。  
 GP-2  
 花崗岩質砂礫質砂礫  
 明褐色～黄褐色 (7.5YR 7/2～7.5YR 8/6)  
 主に砂質シルト質砂礫状。一部は砂質シルト質  
 砂質シルト質砂礫状と認められる。  
 0 1m  
 法面勾配 65°

スケッチ

2-1ピット北面F#P (1/6) 27.11/20

作成日・確認日：2022年3月28日  
 確認者：[Redacted]

確認日 (受領証カワクレイ) 2022年7月5日  
 確認者：[Redacted]

青枠：②層、③層の色調に関する部分

2022/7/5

2022.7.5

スケッチ原図(0-10)レンテラ 2-1ピット 1/20 欠部下部(1/6) 記事			スケッチ原図(1層調査)										スケッチ原図(2層調査)									
No	地層の付録に関する記事	適正化するべき記事内容	地層名	地層の特徴										赤化・結核	赤化・変質	剥孔目・中心部調査	赤化・結核	記事・スケッチを削除・変更・追加した理由				
				1:粘質壤土、硬い塊状、粘性	2:塊の風化	3:粘質土(粘質土質、異質など)	4:その他、風化と異なる状況(粘質土質)が認められる場合	5:粘質土質の割合(%)	6:粘質土質の割合(%)	7:粘質土質の割合(%)	8:粘質土質の割合(%)	9:粘質土質の割合(%)	10:粘質土質の割合(%)						11:粘質土質の割合(%)			
1	緑黄色シルト質粘砂層 厚1-2cm程度、灰白色 (SVPT) 8-7 SVPB(2)。	緑黄色シルト質粘砂層 厚1-2cm程度、灰白色 (SVPT) 8-7 SVPB(2)。																				
2	緑黄色シルト質粘砂層 主に上部は緑黄色シルト質粘砂層からなる。粘質土質(7 SVPT) 1-3 SVPB(4) 厚は50mm以下の風化したCa-G-Feの境界層。下部はシルト質粘砂層からなる。粘質土質(7 SVPT) 1-3 SVPB(4) 粘質土質(7 SVPT) 1-3 SVPB(4) 厚は主に50mm以下の風化したCa-G-Feの境界層が多い。厚質はシルト質粘砂層からなる。	緑黄色シルト質粘砂層 主に上部は緑黄色シルト質粘砂層からなる。粘質土質(7 SVPT) 1-3 SVPB(4) 厚は50mm以下の風化したCa-G-Feの境界層。下部はシルト質粘砂層からなる。粘質土質(7 SVPT) 1-3 SVPB(4) 粘質土質(7 SVPT) 1-3 SVPB(4) 厚は主に50mm以下の風化したCa-G-Feの境界層が多い。厚質はシルト質粘砂層からなる。																色調の記号を追加				
3	砂 黄白色 (7 SVPT) 9	砂 黄白色 (7 SVPT) 9																				
4	黄白色 厚1-2cmの風化したCa-G-Fe境界層 厚は主に2-5cm程度。黄質は主に粘土質の塊状を示す。	黄白色 厚1-2cmの風化したCa-G-Fe境界層 厚は主に2-5cm程度。黄質は主に粘土質の塊状を示す。																				
5	黄白色(粘土質) 粘土質(粘土質) (7 SVPT) 2-1 SVPB(5) 主に粘土質の塊状を示す。	粘土質(粘土質) 粘土質(粘土質) (7 SVPT) 2-1 SVPB(5) 主に粘土質の塊状を示す。																				
6	黄白色(粘土質) 粘土質(粘土質) (7 SVPT) 2-1 SVPB(5)	粘土質(粘土質) 粘土質(粘土質) (7 SVPT) 2-1 SVPB(5)																				

No	緑砂層に関する記事	適正化するべき記事内容	緑砂層区分 (Hx/Hy)	緑砂層の性状 1:緑砂層の塊状 2:粘質土質 3:粘質土質の塊状性、連続性 4:粘質土質の塊状性、連続性	内部構造 1:粘質土質、塊状構造 2:粘質土質、塊状構造	断面形状 1:断面形状、断面形状	緑砂層の性状 1:粘質土質、塊状構造 2:粘質土質、塊状構造	黄化・結核 1:黄化・結核、黄化・結核	赤化・変質 1:赤化・変質、赤化・変質	剥孔目・中心部調査 1:剥孔目・中心部調査、剥孔目・中心部調査	赤化・結核 1:赤化・結核、赤化・結核	記事・スケッチを削除・変更・追加した理由
1	黄白色(粘土質) 粘土質(粘土質) (7 SVPT) 2-1 SVPB(5)	粘土質(粘土質) 粘土質(粘土質) (7 SVPT) 2-1 SVPB(5)	○	○	-	○						緑砂層区分、および断面形状の判断を記載。
2	黄白色(粘土質) 粘土質(粘土質) (7 SVPT) 2-1 SVPB(5)	粘土質(粘土質) 粘土質(粘土質) (7 SVPT) 2-1 SVPB(5)	○	○	-	○						緑砂層区分、および断面形状の判断を記載。
3	黄白色(粘土質) 粘土質(粘土質) (7 SVPT) 2-1 SVPB(5)	粘土質(粘土質) 粘土質(粘土質) (7 SVPT) 2-1 SVPB(5)	○	○	-	○						緑砂層区分、および断面形状の判断を記載。
4	黄白色(粘土質) 粘土質(粘土質) (7 SVPT) 2-1 SVPB(5)	粘土質(粘土質) 粘土質(粘土質) (7 SVPT) 2-1 SVPB(5)	○	○	-	○						緑砂層区分、および断面形状の判断を記載。
5	黄白色(粘土質) 粘土質(粘土質) (7 SVPT) 2-1 SVPB(5)	粘土質(粘土質) 粘土質(粘土質) (7 SVPT) 2-1 SVPB(5)	○	○	-	○						緑砂層区分、および断面形状の判断を記載。

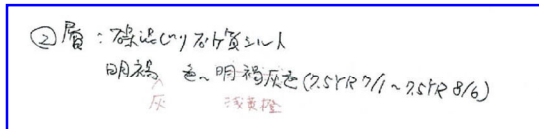
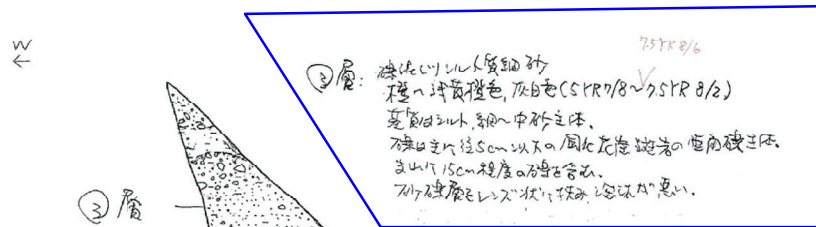
青枠：②層，③層の色調に関する部分

80のエビデンス (3/13)

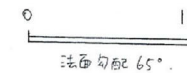
スケッチ名：D-1トレンチ 2-1ピット 1/20 北面上部(2/6) スケッチ

スケッチ原因に以下の情報が書かれているか  
 ・観察面の対象箇所名  
 ・観察面の枠  
 ・縮尺  
 ・方位、スケール(または、グリッドの間隔)  
 ・観察年月日、観察者

スケッチ



2-1ピット北面上部(3/6) 22.11.1/20



作成日・確認日：2022年3月28日  
 確認者：[Redacted]

青枠：②層，③層の色調に関する部分

2022  
作成日 3/28 作成者 [Redacted] 確認者 [Redacted] 確認日 2022.3.28

No.	地層の性状に関する記事	適正化すべき記事内容	スケッチ原図(第四系)										スケッチ原図(基盤岩)				記事・スケッチを削除・変更・追記した理由
			地質名	地質の特徴				地層境界	地層境界の整合・不整合	堆積構造	土壌化など、堆積層の時間関係を色調で示すもの	走向・傾斜 ・堆積構造やせん断面の走向・傾斜を記載。 ・その面を最も代表する箇所で測定する(ただし、局所的に凹凸や方向が変化している箇所では測定しない)。	風化・変質	割れ目・せん断割れ目 ・地層中の高圧帯の割れ目(割れ目)割れ目等の存在物の種類と幅及び色調。系統毎の代表的な割れ目の走向・傾斜、開口、充填などを記載	色調	走向・傾斜 ・割れ目ではその面を最も代表する箇所で測定する(ただし、局所的に凹凸や方向が変化している箇所では測定しない)。	
				・粒度構成、礫の形状、形状・長さ、軸まり具合	・礫の風化度	・含有物(有機質、頁岩など)	・その他、異型と異なる状況や特徴的な状況があれば、それらについて記載。										
	① 礫混じりシルト質細砂 層→淡黄褐色、灰白色(SYR7/8~7SYR8/2)。 礫混じりシルト、細砂質主体。 礫は主に径5mm以下の風化花崗閃緑岩の歪角礫主体。まれに15mm程度の礫を含む。 砂礫層をレンズ状に挟み、薄法が薄い。	礫混じりシルト質細砂 層→淡黄褐色、灰白色(SYR7/8~7SYR8/2)。 礫混じりシルト、細砂質主体。 礫は主に径5mm以下の風化花崗閃緑岩の歪角礫主体。まれに15mm程度の礫を含む。 砂礫層をレンズ状に挟み、薄法が薄い。	○	○	○	-	-	○	○	-	○	-	-	-	-	-	色調の記号を追加
	② 礫混じり砂質シルト層 明褐色→明褐色(7SYR7/1~7SYR8/6)。	礫混じり砂質シルト層 明褐色→淡黄褐色(7SYR7/1~7SYR8/6)。	○	-	-	-	-	○	-	-	○	-	-	-	-	-	色調(明褐色→明褐色)と色調を添す記号(7SYR7/1~7SYR8/6)が不一致であったため、数値等を確認して色調の記載を修正した。

No.	破砕部に関する記事	適正化すべき記事内容	破砕部										記事・スケッチを削除・変更・追記した理由				
			破砕部の性状 ・破砕部の層 ・破砕部内物質 ・破砕 ・破砕部の連続性・連続性 ・浸透性 ・浸透性が認められる岩片を主体とし、基質を細粒化した岩片からなる組織の有無	内部構造 ・破砕構造、複合面構造、葉理構造、網目状、粘りなど	断面形状 ・断面がウジ・断面角稜・カクラー・サイトに区分し記載	破砕種 (実測できる場合)	最新活動面 (認定した場合)	条線	変位・変形量 ・露頭面によって計測した変位・変形量	色調	走向・傾斜 ・その面を最も代表する箇所で測定する。あるいは、主せん断面について複数点で測定する。						
-			-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	

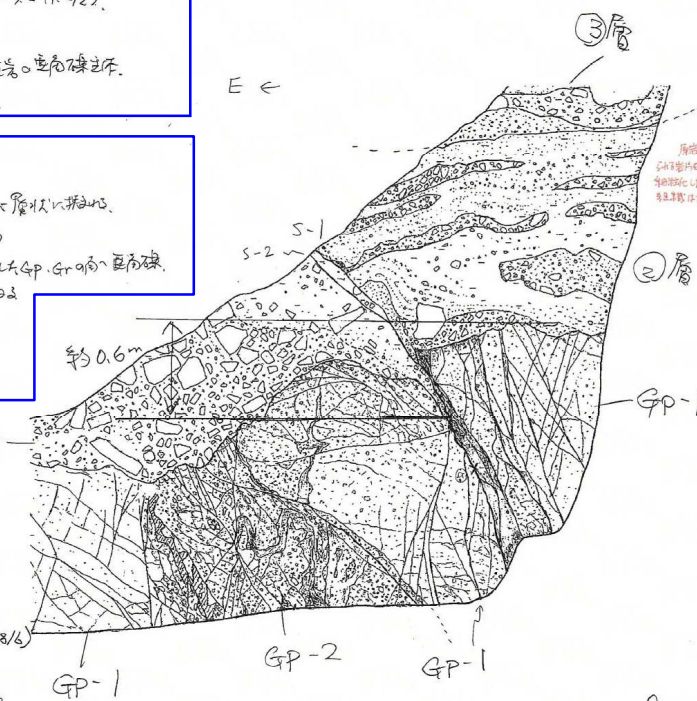
スケッチ名: D-1トレンチ 2-1ピット 1/20 南面下部(3/6) スケッチ

スケッチ原因に以下の情報が書かれているか ・観察面の対象箇所名 ・観察面の枠 ・縮尺 ・方位、スケール(または、グリッドの間隔) ・観察年月日、観察者
○

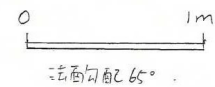
③層: 礫混じりシルト質細砂  
 橙～浅黄橙色, 灰白色 (SYR 7/8 ~ 7.5YR 8/6)  
 基質はシルト, 細中砂主体。  
 石径又は5cm以下の風化花崗斑岩の亜角礫主体。  
 砂礫層を挟み, 毎1mおき。

②層: 礫混じり砂質シルト～シルト質砂礫。  
 シルト質砂礫は主に東側の1/2分厚。  
 西側のシルト質砂礫は礫混じり砂質シルト質中厚層状に挟み。  
 明褐色～明暗灰色 (7.5YR 7/1 ~ 7.5YR 8/6)  
 礫混じり砂質シルトの礫は径5cm以下の風化花崗斑岩の角礫。  
 石架下部には細粒状の含有量2/3程度。  
 一定の堆積構造が見える。  
 基質は主にシルト質中粒砂。  
 シルト質砂礫の礫は主に径50cm以下の  
 風化花崗斑岩の角礫を主体。  
 含量50~60%。  
 基質はシルト質中粒砂。

GP-1: 風化花崗斑岩  
 浅黄橙色 (7.5YR 8/4 ~ 7.5YR 8/6)  
 主に中粒砂を主体。  
 GP-2: 花崗斑岩 (礫層上部)  
 黒褐色～浅黄橙色 (6.5YR 3/2 ~ 7.5YR 8/6)  
 主に中粒細砂状。  
 部分的に砂質シルト～シルト質砂状を  
 含む。



→ W  
 の変化した  
 M-1: 花崗斑岩質カクレンサイト H<sub>2</sub>O  
 礫層上部～下部 (SYR 8/5 ~ 7.5YR 8/1)  
 砂質シルト質の礫混じり砂状。上部は  
 中粒砂を主体とし、下部は細粒砂を主体とし、  
 中粒砂の含有量は上部より下部へと減少する。  
 ②: N10°E 7°W 断面から見た礫層の構造。礫の  
 層状構造は、断面 S-1, S-2 において、  
 礫層の厚さは約 0.6m 程度である。  
 S-1: 断面 S-1, S-2 において、礫層の厚さは  
 約 0.6m 程度である。上部はシルト質中粒砂を  
 主体とし、下部は細粒砂を主体とする。  
 S-2: 断面 S-1, S-2 において、礫層の厚さは  
 約 0.6m 程度である。上部はシルト質中粒砂を  
 主体とし、下部は細粒砂を主体とする。



法面勾配 65°

2-1ピット南面下部(3/6) 24.11.1/20

作成日・確認日: 2022年3月28日  
 確認者: [Redacted]  
 確認日(復検): 2022年7月5日  
 確認者: [Redacted]

スケッチ

青枠：②層、③層の色調に関する部分

作成日 2022/7/5 作成者 [Redacted] 確認者 [Redacted] 確認日 2022.7.5

No.	地層の性状に関する記事	適正化すべき記事内容	スケッチ原図(第四系)										スケッチ原図(第三系)	記事・スケッチを削除・変更・追加した理由		
			地質名	粒定規模、礫の産出、形状、数量、偏り具合	礫の風化、含有物(有機質、頁岩など)	その他、断面と異なる状況や特徴的な状況がある場合、それらについて記す	地層境界	地層境界の理由(記事の記載と異なる場合は、その理由も併せて記す)	堆積構造	管理、管理、統合など	土壌化など、堆積環境、地質取組を色調示すもの	走向・傾斜			走向・傾斜 ・堆積構造やせん断面の走向・傾斜を記載。 ・その面を最も代表する箇所を指定するよう記す。局所的に異なる方向が変化している箇所では測定しない。	地質名
1	緑泥質シルト質砂砂 層一、黄褐色、灰白色(SYR1/0~2SYR0.2)。 基質はシルト、細一中砂主体。 粒径は500μm以下の風化程度程度の重角礫主体。 砂層厚が読み、測法が悪い。	緑泥質シルト質砂砂 層一、黄褐色、灰白色(SYR1/0~2SYR0.2)。 基質はシルト、細一中砂主体。 粒径は500μm以下の風化程度程度の重角礫主体。 砂層厚が読み、測法が悪い。	0	0	0	-	-	0	0	-	0	-	-	-	-	色調の記号を追加
2	緑泥質砂質シルト質砂砂 シルト質砂砂は主に東側に分布する。 砂質シルト質砂砂は緑泥質シルト質砂砂中に層状に含まれる。 明褐色~暗褐色(1.5YR7/1~1.5YR6/0) 緑泥質シルト質砂砂の粒径は500μm以下の風化したOp・Oの角一重角礫。 粒径は2mm以上と細かいが、含有量は多くなる。 一部に堆積構造が見える。 基質はシルト質砂砂。 シルト質砂砂の粒径は主に500μm以下の風化したOp・Oの角一重角礫を含む。 断面はOp。 基質は砂質シルトからなる。	緑泥質砂質シルト質砂砂 シルト質砂砂は主に東側に分布する。 砂質シルト質砂砂は緑泥質シルト質砂砂中に層状に含まれる。 明褐色~暗褐色(1.5YR7/1~1.5YR6/0) 緑泥質シルト質砂砂の粒径は500μm以下の風化したOp・Oの角一重角礫。 粒径は2mm以上と細かいが、含有量は多くなる。 一部に堆積構造が見える。 基質はシルト質砂砂。 シルト質砂砂の粒径は主に500μm以下の風化したOp・Oの角一重角礫を含む。 断面はOp。 基質は砂質シルトからなる。	0	0	0	-	-	0	0	-	0	-	-	-	-	色調(明褐色~暗褐色)と色調を 異なる記号(1.5YR7/1~1.5YR6/0)が ないため、黄褐色を補 記して色調の記載を修正した。
0	風化花崗岩部 P 黄褐色(1.5YR6/4~7.5YR/6)。 主にやや粗粒な角礫状。		-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	0	0	-	
0	花崗岩部(砂質部) P 黄褐色~黄褐色(1.5YR6/2~7.5YR/6)。 主に砂質礫状、部分的に砂質シルト質砂砂状を呈する。		-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	0	0	-	

No.	礫部に関する記事	適正化すべき記事内容	礫部等										記事・スケッチを削除・変更・追加した理由		
			礫部区分 (H <sub>0</sub> H <sub>1</sub> )	礫部区分の性状 ・堆積物 ・礫部内物質 ・形状 ・細粒部の連続性・連続性 ・断面連続性を認められる岩片を主体とし、基質も細粒化した岩片からなる結核の有無	内部構造 ・柱状構造、適合面構造、異形構造、網目状結核など	断面区分 断面がウジ・断面角礫・カクレーサイズに区分し記載	礫部種 (識別できる場合)	最新活動面 (認定した場合)	色調	変質・変形量 ・断面によって計測した変質・変形・変色	走向・傾斜 ・その面を最も代表する箇所を指定するよう記す。局所的に異なる方向が変化している箇所では測定しない。				
H	花崗岩質330μmの P 黄褐色~灰白色(1.5YR6/2~7.5YR/1) 砂質シルト~緑泥質シルト質砂砂 1 やや粗粒、全体的に変質を受けて灰色している。 カラーチャートの特徴が認められる。	花崗岩質の変質した330μmの P 黄褐色~灰白色(1.5YR6/2~7.5YR/1) 砂質シルト~緑泥質シルト質砂砂。 やや粗粒、全体的に変質を受けて灰色している。 断面連続性を認められる岩片を主体とし、基質も細粒化した岩片からなる結核は認められる。	0	0	-	-	0	-	-	-	-	0	-	-	礫部区分、および断面区分の 判断理由を記載。
H	1.5YR 6/2 W 断面がウジ 黄褐色粘土 軟質 層1~3mm 変質1.5 R	1.5YR 6/2 W 断面がウジ 黄褐色粘土 H=1 層1~3mm 変質1.5 R 軟質 断面連続性を認められる岩片を主体とし、基質も細粒化した岩片からなる結核は認められる。	0	0	-	-	0	-	-	-	-	0	-	-	礫部区分、および断面区分の 判断理由を記載。
H	せん断面 層1~3mmの黄褐色~暗褐色粘土。 軟質 断面がウジ せん断面は、5~20より基盤面上部が断面セリスで約0.6m変位している。 上部で2と分離している。 比較的シャープだが、真面目認められる。 全ての構造を切り、細粒部を伴う。	せん断面 層1~3mmの黄褐色~暗褐色粘土。 H=1 軟質 断面がウジ せん断面は、5~20より基盤面上部が断面セリスで約0.6m変位している。 上部で2と分離している。 比較的シャープだが、真面目認められる。 全ての構造を切り、細粒部を伴う。 断面連続性を認められる岩片を主体とし、基質も細粒化した岩片からなる結核は認められる。	0	0	-	-	0	-	-	-	-	0	-	-	礫部区分、および断面区分の 判断理由を記載。
H	せん断面 層1~3mmの黄褐色~暗褐色粘土。 軟質 断面がウジ せん断面は、5~20より基盤面上部が断面セリスで約0.6m変位している。 上部で2と分離している。 比較的シャープだが、真面目認められる。 全ての構造を切り、細粒部を伴う。	せん断面 層1~3mmの黄褐色~暗褐色粘土。 H=1 軟質 断面がウジ せん断面は、5~20より基盤面上部が断面セリスで約0.6m変位している。 上部で2と分離している。 比較的シャープだが、真面目認められる。 全ての構造を切り、細粒部を伴う。 断面連続性を認められる岩片を主体とし、基質も細粒化した岩片からなる結核は認められる。	0	0	-	-	0	-	-	-	-	0	-	-	礫部区分、および断面区分の 判断理由を記載。

青枠：③層の色調に関する部分

80のエビデンス (7/13)

スケッチ名:D-1トレンチ 2-1ピット 1/20 南面上部(4/6) スケッチ

スケッチ原因に以下の情報が書かれているか  
• 観察面の対象箇所名  
• 観察面の枠  
• 縮尺  
• 方位、スケール(または、グリッドの間隔)  
• 観察年月日、観察者

○

スケッチ



③層  
褐色のシルト質細砂 7.5YR 8/6  
褐色の腐植層色、棕色(5YR 7/6 ~ 7.5YR 8/6)  
厚層シルト、細中砂主体、湿気が多い。  
シルト質砂層と砂質シルト層との境界線。  
石の粒径2~5cmの同心花崗斑岩の  
断面砂主体。  
手前15cm(最大35cm)程度の砂と砂質シルト層。

2-1ピット 南面上部(4/6) スケール 1/20



法面勾配 65°

作成日・確認日: 2022年3月28日  
確認者: [REDACTED]



青枠：③層の色調に関する部分

2022

作成日 3/28

作成者

確認者

確認日 2022.3.28

No	地層の性状に関する記事	適正化すべき記事内容	スケッチ原図(第四系)														
			地質名	地質の特徴					地層境界			土壌化など、地積		走向・傾斜		対れ目・断面割れ目	記事・スケッチを削除・変更・追記した理由
				粒状構成、 面の 種類、形状、 傾斜、構造、持 ち、高さ	線の風化、 深	含有物(有機 質、質粒など)	その他、断面と異なる状 況や特徴的な状況があ れば、それぞれについて記 載。	境界線の整合・不整合 境界線の認められる場 合は、その種類も併せて 記載	連続構造 の 種類、高さ、傾斜 など	土壌化など、地積 層積、沖積、堆積 を示すもの	走向・傾斜 ・地積構造やせん断面の定 向・傾斜を記載。 その裏でも代る層層 で測定するようし、層前 に断面や方向が変化してい る箇所では測定しない。	地積名	地積	走向・傾斜 ・その層でも代る層層で測 定する。あるいは、主断面 について傾斜角で測定する。			
③層	細粒シルト質細砂 層～淡黄褐色、灰白色 (SYR7/8～7SYR8/2)。 基質はシルト、細～中粒主体。濁状が強い。 シルト質砂層を挟む。 層は径2～5cmの風化花崗閃岩の五角柱主体、まれに15cm(最大35cm)程度の礫を含む。	細粒シルト質細砂 層～淡黄褐色、灰白色 (SYR7/8～7SYR8/2)。 基質はシルト、細～中粒主体。濁状が強い。 シルト質砂層を挟む。 層は径2～5cmの風化花崗閃岩の五角柱主体、まれに15cm(最大35cm)程度の礫を含む。	○	○	○	-	-	-	○	-	○	-	-	-	-	-	色調の記号を追加
No	破砕部に関する記事	適正化すべき記事内容	破砕部														
			破砕部の性状 ・破砕部の種 ・破砕部の性質	破砕部区分 (He/Mh)	内部構造 ・塊状構造、礫集合構造 ・多層構造、塊目状 ・粘土など	断面区分 ・断面ガウジ/断面 ・角張/カクラー/アイ トに区分し記載	破砕幅 (実測できる場合)	露新活動面 (認定した場合)	条線	変位・変形量 ・露新面に沿って計測した変位・変形量	色調	走向・傾斜 ・その層でも代る層層で測 定する。あるいは、主断面 について傾斜角で測定する。	記事・スケッチを削除・変更・追記した理由				
-			-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-			

青枠：②層、③層の色調に関する部分

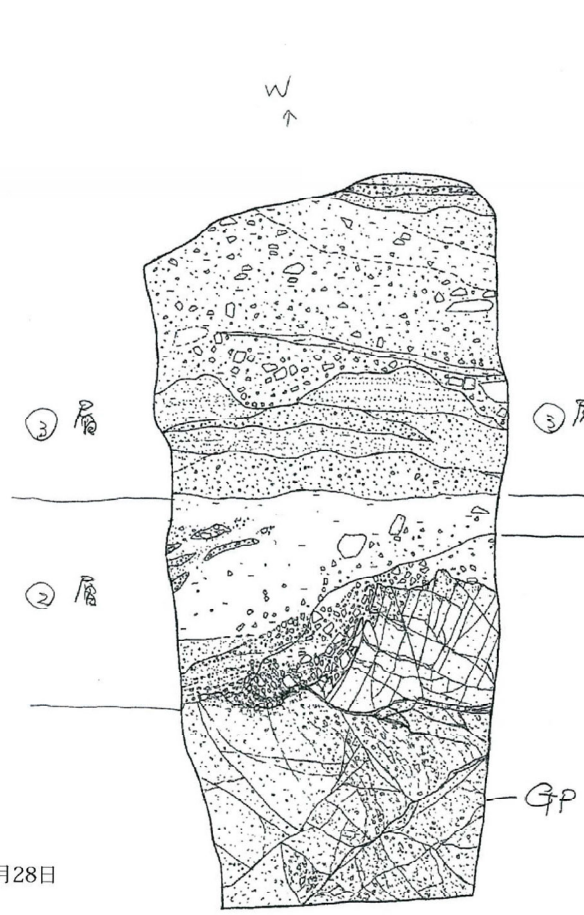
80のエビデンス (9/13)

スケッチ名：D-1トレンチ 2-1ピット正面壁面 1/20 正面壁面(6/6) スケッチ

スケッチ原因に以下の情報が書かれているか  
 ・観察面の対象箇所名  
 ・観察面の枠  
 ・縮尺  
 ・方位、スケール(または、グリッドの間隔)  
 ・観察年月日、観察者

○

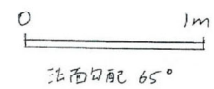
スケッチ



③層  
 礫は10cm以下の細砂、  
 塊状黄褐色、灰白色(SYR 7/8 ~ 2SYR 8/2).  
 基質はシルト、細中砂主体、シルト層、砂体層を  
 レズした塊状、塊状が多い。  
 礫は径5cm以下の風化花崗斑岩の亜角礫主体。  
 基質は15cm程度の白色風化砂。  
 ついては明瞭なとらえられ。

②層  
 礫は10cm以下のシルト質砂礫  
 シルト質砂礫は主に下部に分布。  
 上部は礫混じり砂質シルト主体。  
 明褐色、明褐色(SYR 7/1 ~ 2SYR 8/6)  
 礫は10cm以下の風化5cm以下の風化  
 Lh GP・Gra 亜角礫  
 一部塊状構造が見える。  
 シルト質砂礫の礫は主に径30cm以下の  
 風化Lh GP・Gra 亜角礫を主体。  
 砕率約60%。  
 基質は砂質シルトから砂

GP  
 風化花崗斑岩  
 塊状黄褐色(SYR 7/4 ~ 2SYR 8/6)  
 主に脆弱な角礫状、7R、7Y、4X。  
 割れ目明瞭。



2-1ピット正面壁面 1/20

作成日・確認日：2022年3月28日  
 確認者：[Redacted]